



第3次加西市観光推進基本計画

『学びと体験・平和を紡ぐまち加西』探訪



加西市
KASAI CITY

令和5年度～令和9年度
(2023年度) (2027年度)



【表紙の挿絵 『加西ふるさとかるた』について】

「加西の魅力をかるたにしよう」と市内の小学生に加西の名所、特産品、文化、歴史、人物など加西の素敵なところを、みんなの言葉で読札にしてもらいました。485名からご応募いただいた913句の中から44の読札が決定しました。

絵札は、兵庫県を代表する版画家 岩田健三郎先生です。

はじめに

加西市は、播磨国賀毛郡として栄え、1300年前の日本最古の地誌『播磨国風土記』にも多く記される、歴史と文化溢れるまちです。昭和42年に、旧加西郡の3町が合併、県下21番目の市として誕生し、昨年、市制55周年を迎えました。

55年の発展の歴史の中で、令和にかわった3年間に、加西市の観光を考える上で、歴史的な変化が2つ起こりました。

1つ目は、国から払い下げを受け、平和ミュージアムとして整備を進めてきた戦争遺産 鷯野飛行場跡地に修学旅行生が訪れ始めたことです。令和2年1月から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は全世界に被害を及ぼし、すべての行動や生活に自粛を求められ、特に観光産業においては、大打撃を与えました。そのような中、修学旅行の平和教育の場として、近畿圏から比較的近い加西市が訪問先として選ばれたのです。さらに、SNS等による情報発信や旅行会社やメディア向けへのセールスを強化した結果、令和2年度から現在で、延べ200校以上の小中学校を受け入れるという成果を収めることができました。また、同じ鷯野飛行場跡地に令和4年4月にオープンした「soraかさい(地域活性化拠点施設)」の集客効果もあり、市制発足以来、最高の観光入込客数を記録しました。

2つ目は、昨年3月に、加西市を走る第3セクターの北条鉄道に、東北の五能線を走るキハ40形車両を導入し、鉄道ファンから大きな注目を集め、今年度、開業以来、過去最高の乗車人数と売上げを記録したことです。車両購入と改造費用はクラウドファンディングで募り、全国からあたたかいご支援をいただきました。

これら加西市の観光に及ぼした2つの大きな変化は、「第2次加西市観光推進基本計画(平成30年度～令和4年度)」には残念ながら想定されておりません。しかし、コロナやロシアによるウクライナ侵攻など、思いもよらない事象が発生し、それにより社会情勢が目まぐるしく変化する中で、次なる観光のトレンドをキャッチし、迅速かつ柔軟に対応したことが成果に繋がりました。

こういった加西市の上昇気流をさらに継続、発展していくために、令和5年度からの5年間の観光計画を示した「第3次加西市観光推進基本計画」を策定いたしました。

第3次計画では、第1次・第2次計画の方向性を引き継ぎながらも、2025年に開催される大阪関西万博を見据え、平和ツーリズムの誘致をはじめ、観光産業を本市の産業の一つの軸として成長させるべく、より戦略的な観光を推進していきます。

今後も、一般社団法人加西市観光協会をはじめ、民間事業者、経済団体、関係市民の皆さま方と連携し、観光客の満足度を高め、観光消費総額を拡大することで、加西市全体を循環型経済社会として将来にわたり発展させることを目指していきます。

最後に、本計画の策定にあたりご尽力をいただきました策定委員会の委員の皆さまをはじめ、アンケートやヒアリング調査等を通じて貴重なご意見をいただきましたすべての皆さまに心から感謝を申し上げます。



加西市長 西村 和平

目次

1	計画策定にあたって	1
	(1) 計画策定の趣旨	1
	(2) 計画の位置づけ	1
	(3) 計画期間	1
2	国内外観光の現状	2
	(1) 国内観光の現状	2
	(2) インバウンドの現状	4
3	加西市観光の現状	7
	(1) 加西市観光の現状	7
	(2) 観光客のニーズ	8
	(3) 市民の観光に対する意向(市民アンケート調査)	16
	(4) 事業者の観光に対する意向や取り組みについて(事業者アンケート)	17
4	ワークショップ	18
	(1) 加西市の魅力創造ワークショップ(文化観光資源)(吉兼先生・玉岡先生)	18
	(2) 食を中心としたブランド化推進ワークショップ(広里先生)	19
5	将来計画	21
	(1) 第6次加西市総合計画(令和3～12年度)	21
	(2) (仮称)道の駅加西整備基本構想(令和4年3月)	22
6	第2次加西市観光推進基本計画の検証	23
7	加西市観光の強み・弱み・機会・脅威	24
8	課題と取り組み方向	25
	(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし	25
	(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信	25
	(3) 受入環境の整備と人材育成	25
9	観光振興のコンセプトと基本方向	26
	(1) 観光振興のコンセプト(将来像)	26
	(2) 基本目標	27
	(3) 観光市場における加西市の立ち位置	28
	(4) 観光施策推進に果たす(一社)加西市観光協会の役割	29
10	基本方針	30
11	基本計画(5年)	31
12	重点施策	35
13	計画の推進に当たって	39
	(1) 計画の推進体制	39
	(2) 計画の進捗管理	39
	資料編	40
	資料1 ワークショップ概要	40
	1-1. 加西市の魅力創造ワークショップ	40
	1-2. 食を中心としたブランド化推進ワークショップ	44
	資料2 策定組織体制	48
	資料3 策定経過	49

1 計画策定にあたって

(1) 計画策定の趣旨

本市では、平成30年度～令和4年度(2018年度～2022年度)を計画期間とした「第2次加西市観光推進基本計画」に基づき、「加西観光まちづくり劇場 フラワー&ピースフル」を将来のキャッチフレーズに、計画に基づいた観光施策を展開してまいりました。

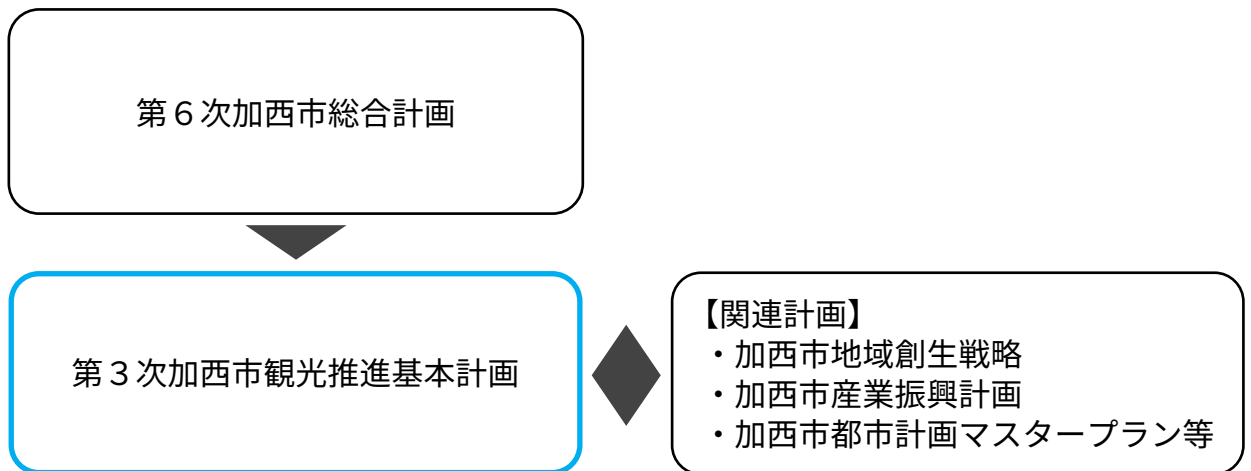
この間、国では新たな「観光立国推進基本計画」(令和5年度～令和7年度(2023年度～2025年度))、兵庫県では「ひょうご新観光戦略」(令和5年度～令和9年度(2023年度～2027年度))が策定されるなど、観光行政の大きな見直しが図られています。

令和2年度(2020年度)の新型コロナウイルス感染症拡大による行動制限にともない、観光客は減少する結果となりましたが、令和7年度(2025年度)に開催される大阪・関西万博にともない、訪日外国人旅行者を都市部だけではなく地方部へ呼び込むための取組検討も必要です。

こうした変化を捉えながら、「第2次加西市観光推進基本計画」が令和4年度(2022年度)に満了を迎えることを踏まえ、令和9年度(2027年度)を目標年次とした「第3次加西市観光推進基本計画」を策定します。

(2) 計画の位置づけ

計画の策定にあたっては、「第6次加西市総合計画」を上位計画として、観光関連計画との整合性を図りながら、実施するものです。



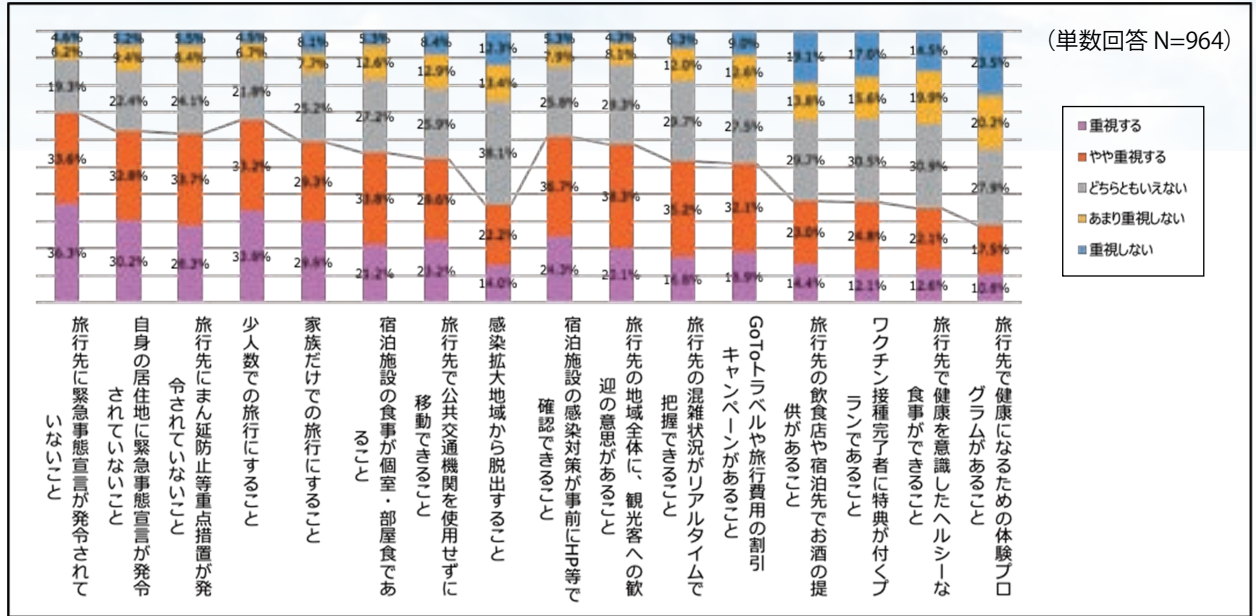
(3) 計画期間

計画期間は、令和5年度～令和9年度(2023年度～2027年度)までの5年間とします。なお、計画期間中に状況の変化などが生じた場合は、計画期間内においても、必要に応じて見直しを図ります。

(1) 国内観光の現状

① コロナ禍における旅行で重視すること

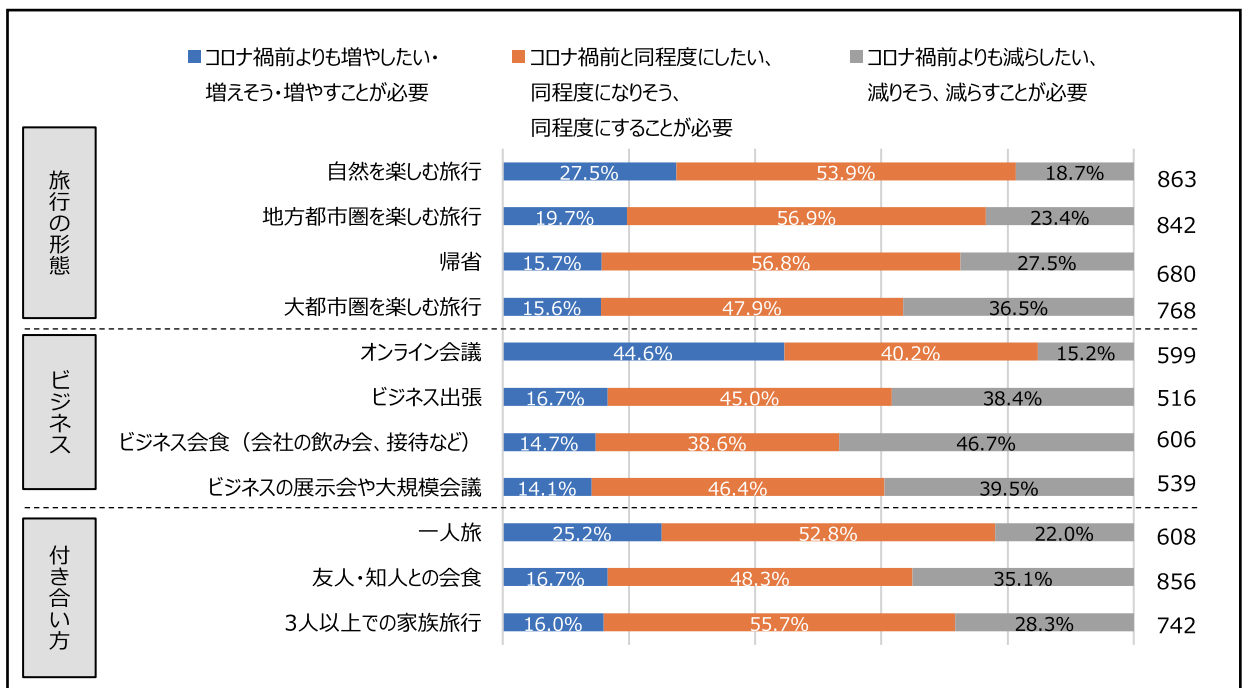
コロナ禍での旅行で重視することは、「旅行先に緊急事態宣言が発令されていないこと」や**家族・少人数での旅行等**を重要視する傾向にあります。



(出典：株式会社JTB総合研究所『新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化と旅行に関する意識調査』/2021年8月)

② コロナ禍前と比較した2021年の旅行機会

新型コロナの影響を受け、旅行に関しては「自然を楽しむ旅行」「地方都市圏を楽しむ旅行」等が望まれています。



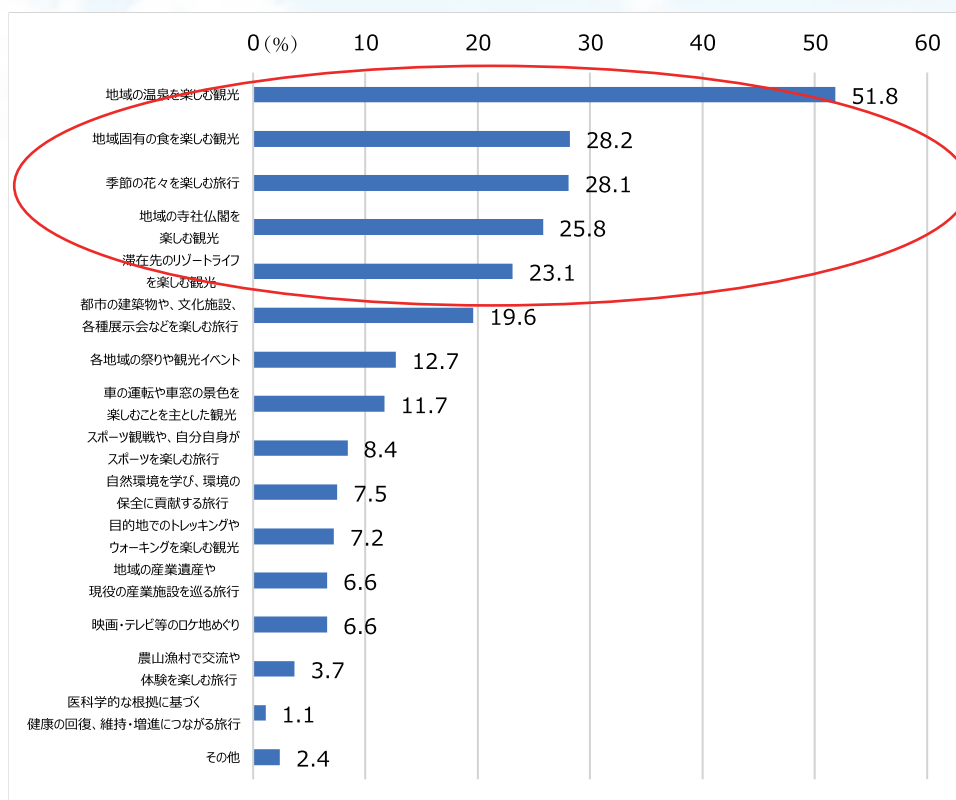
(出典：株式会社JTB総合研究所『新型コロナウイルス感染拡大による、暮らしや心の変化と旅行に関する意識調査』/2021年8月)

③ 地域における観光の動向

観光の志向は「訪れる、観る、食べる」の定番から「体験する、地域の人たちと交流する、感動を共有する」が加わった観光に変化してきています。観光の形態が団体から個人・気の合った人たちのグループ等に変化してきているといわれて久しいですが、この流れが一層顕著になってきています。

④ 希望する旅行の種類

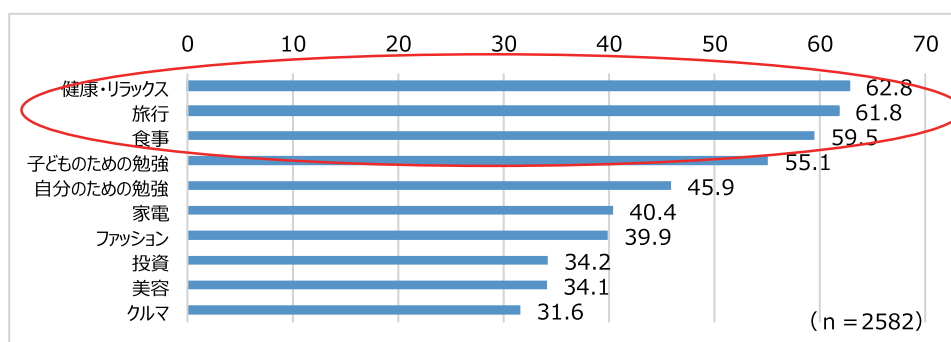
日本観光振興協会の調査によると、国内旅行の際、希望する観光の種類として、「地域の温泉を楽しむ観光」がずば抜けて多く、次いで、「地域固有の食を楽しむ観光」「季節の花々を楽しむ旅行」「地域の寺社仏閣を楽しむ観光」「滞在先のリゾートライフを楽しむ観光」の順となっています。



(出典：公益社団法人 日本観光振興協会『観光の実態と志向』/平成30年度版)

⑤ 以前よりも興味関心が高まっていること

以前よりも興味関心が高まっていることは、「健康・リラックス」(62.8%)、「旅行」(61.8%)、「食事」(59.5%)となり、健康や旅行、食事に対する関心が高くなっています。



(出典：じゃらんリサーチセンター『2018年のトレンド予測 ～旅行業界～』 /2017年)

⑥ 「健康になる旅行」に興味関心を持っている

じゃらんリサーチセンターが実施した『2018年のトレンド予測 ～旅行業界～』の調査によると、「健康になる旅行」に興味関心を持っている人は7割あり、男性30代、女性は10～30代の興味関心度が高くなっています。

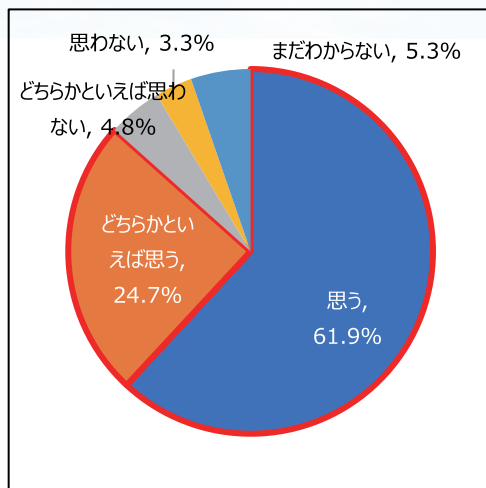
(2) インバウンドの現状

① 新型コロナ収束後の海外旅行意欲、訪問希望国、訪問希望観光地

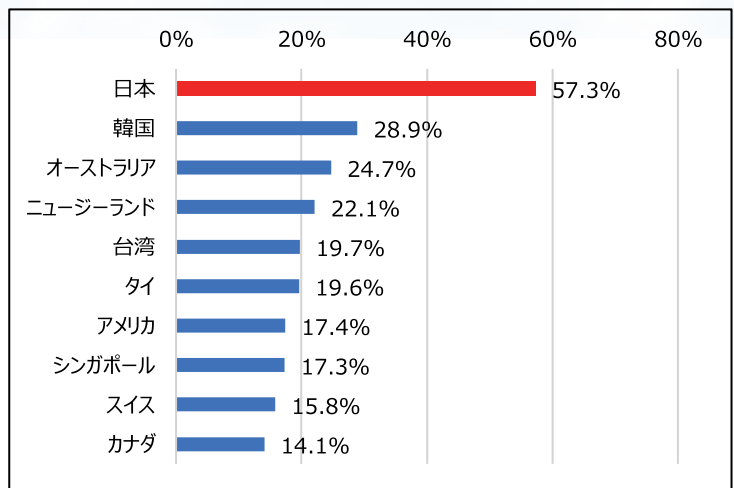
新型コロナ収束後にまた海外旅行をしたいかと思う、「どちらかといえば思う」は86.6%であり、コロナ禍の中でも引き続き**海外旅行への高い関心が確認**されました。

新型コロナ収束後に観光旅行したい国・地域として「日本」と回答した割合は57.3%となり、また**関西地域への訪問意欲も高く、海外旅行先としての人気も引き続き高いことが確認**されました。

● 回答者全体における新型コロナ収束後にまた海外旅行をしたいか

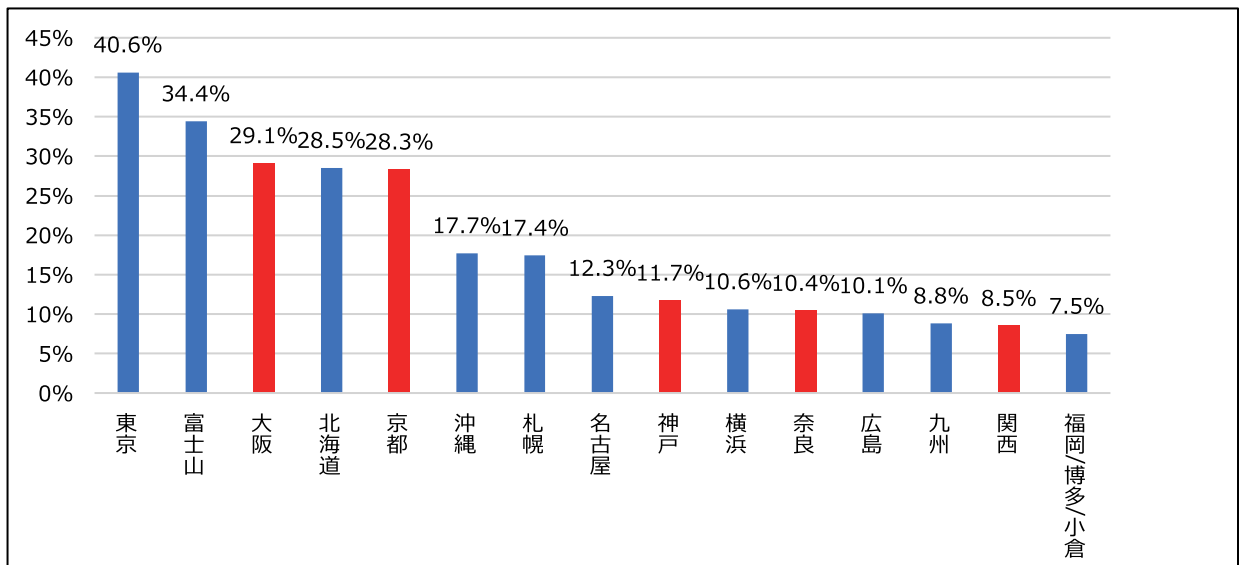


● 回答者全体における新型コロナ収束後に観光旅行したい国・地域 (複数回答、上位10項目)



(出典：株式会社日本政策投資銀行『DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査』/2021年)

● 回答者全体における訪問希望観光地 (上位15項目)



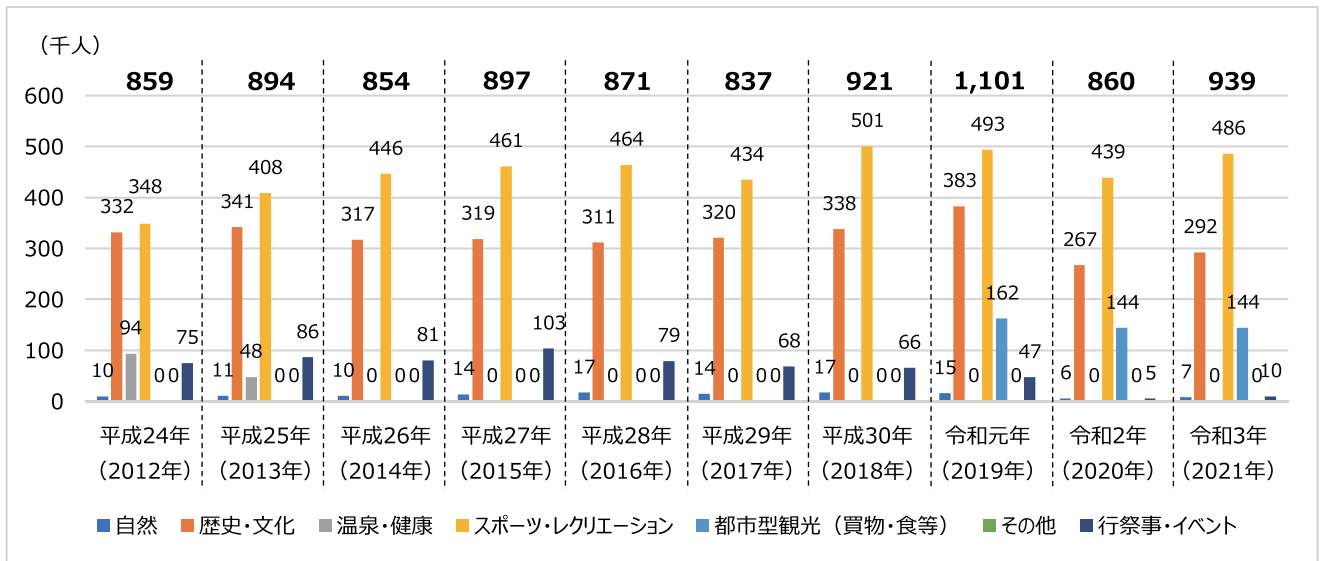
(出典：株式会社日本政策投資銀行『DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査』/2021年)

3 加西市観光の現状

(1) 加西市観光の現状

① 観光入込客数 目的別推移

目的別の入込客数は、令和2(2020)年の新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を観光庁「旅行・観光消費動向調査」を見ると、**全国では令和2(2020)年の前年比が-44.3%と大幅に落ち込んでいます。**しかし、加西市では、**密を嫌い広い空間を求める観光志向を受け止める資源(ゴルフ場、兵庫県立フラワーセンター等)を訪れる人達や令和3(2021)年度以降の鶉野飛行場跡での気球体験やsoraかさい等を訪れる人が拡大していることもあり、大きな落ち込みは見られません。**

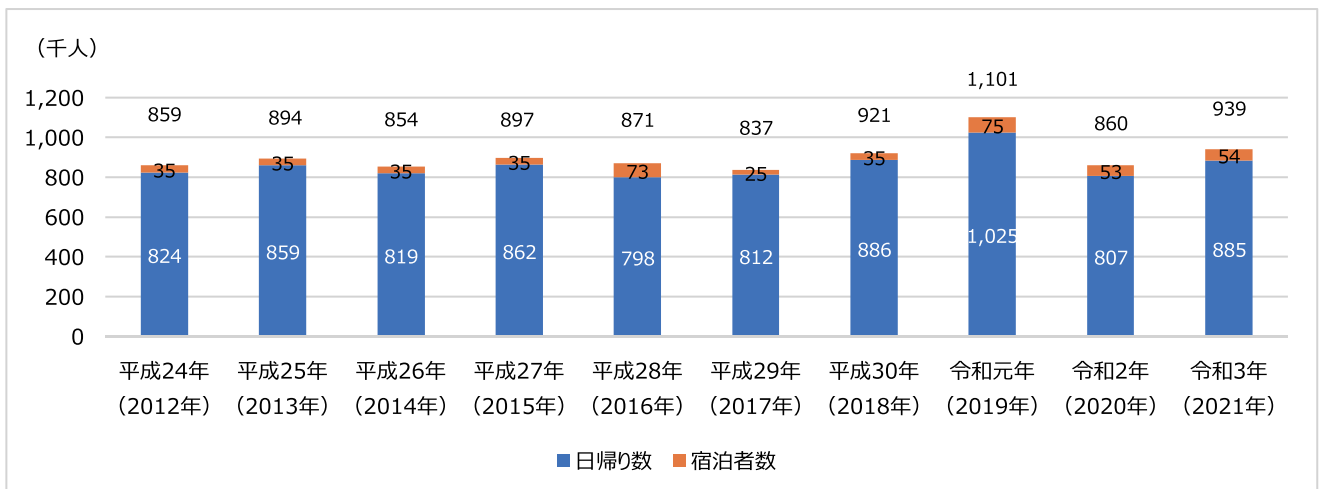


(出典：加西市資料)

② 日帰り者数・宿泊者数の年別推移

日帰り者数は、**鶉野飛行場跡を利活用した取り組みを実施しましたが、コロナ禍の外出控えの影響を受け、減少傾向にあります。**

また、**宿泊者数は、平成30(2018)年の民間ホテル開業等により、大きな伸びを示しており、鶉野飛行場跡と宿泊施設増の相乗効果が表れていると推測されます。**



(出典：加西市資料)

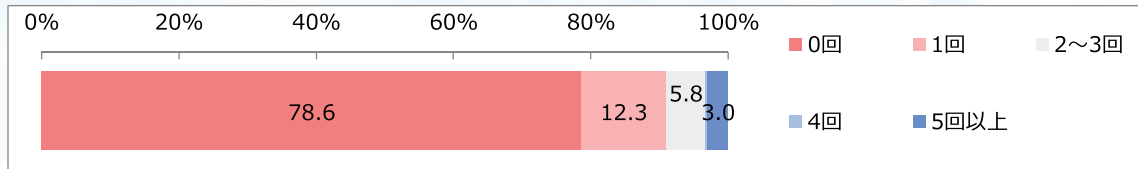
(2) 観光客のニーズ

① インターネットアンケートによる観光客のニーズ (N=1,000)

■観光旅行経験・訪問先・旅行形態

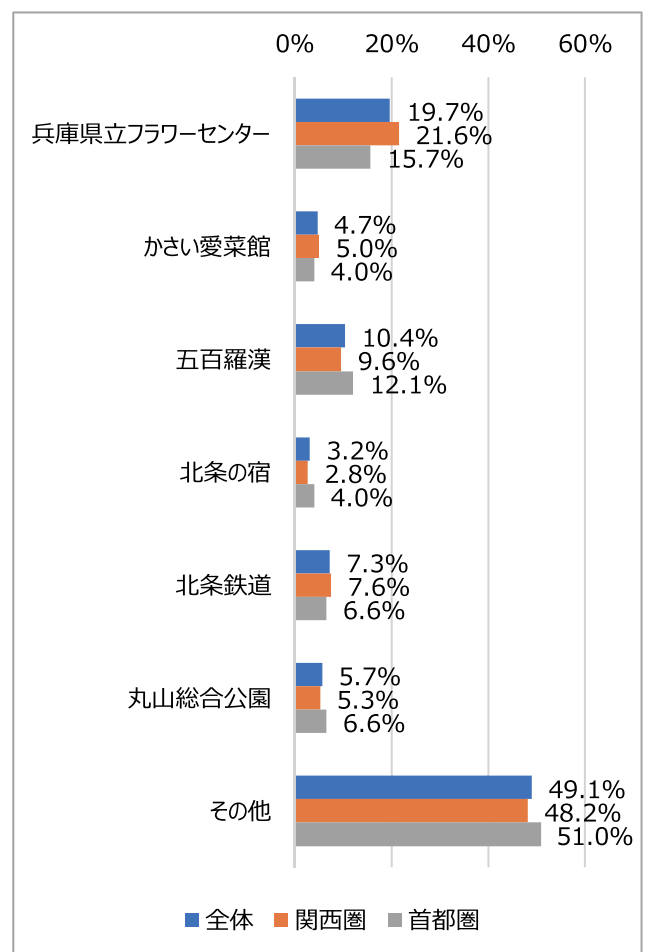
・回答者の2割が一度は加西市(※1)を訪れており、訪問先としては兵庫県立フラワーセンター、五百羅漢、北条鉄道等の順(※2)となっています。旅行形態は宿泊が3割、日帰りが7割(※3)という結果になりました。

(※1) 加西市への観光旅行経験



(※2) 加西市来訪時の訪問先 ※■1位、■2位、■3位

	全体	関西圏	首都圏	
	%	%	%	
総数	100.0	100.0	100.0	
兵庫県立フラワーセンター	19.7	21.6	15.7	
かさい愛菜館	4.7	5.0	4.0	
五百羅漢	10.4	9.6	12.1	
北条の宿	3.2	2.8	4.0	
北条鉄道	7.3	7.6	6.6	
丸山総合公園	5.7	5.3	6.6	
その他	酒見寺	2.8	2.3	4.0
	住吉神社	6.2	5.7	7.1
	法華山一乗寺	6.6	7.1	5.6
	鶉野飛行場跡	3.5	3.9	2.5
	醤油蔵見学	2.8	2.8	3.0
	酒蔵見学	3.2	3.0	3.5
	玉丘史跡公園	2.1	2.5	1.0
	古法華自然公園・浮彫三尊仏龕 (国重要文化財)	2.8	2.8	3.0
	いこいの村はりま	2.5	2.8	2.0
	オークタウン加西	1.3	0.9	2.0
	ゴルフ場	3.9	3.7	4.5
	加西アルプス (善防山・笠松山)	3.3	3.9	2.0
	青野運動公苑 (テニスコート)	2.4	2.3	2.5
	気球搭乗体験	1.9	1.1	3.5
	その他:	3.8	3.4	4.5



(※3) 旅行形態

	全体		関西圏		首都圏	
	n	%	n	%	n	%
総数	214	100.0	151	100.0	63	100.0
宿泊	66	30.8	25	16.6	41	65.1
日帰りのみ (半日程度)	67	31.3	57	37.7	10	15.9
日帰りのみ (丸1日程度)	61	28.5	55	36.4	6	9.5
立ち寄り程度 (2~3時間)	18	8.4	12	7.9	6	9.5
覚えていない	2	0.9	2	1.3	0	0.0

■利用交通手段

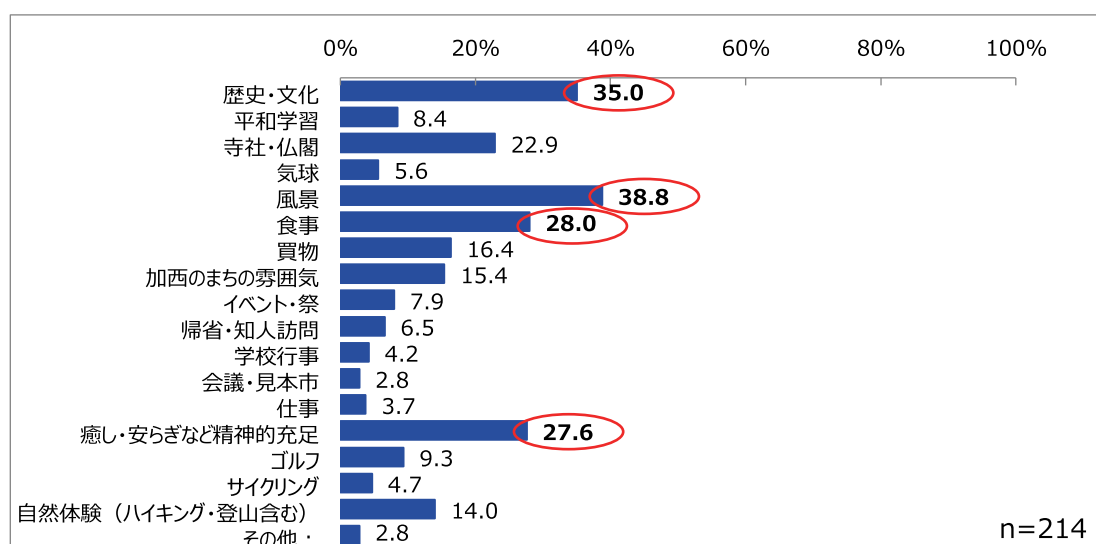
・加西ICがあることから自家用車を利用しての来訪が多くなっています。

	n	%
総数	214	100.0
自家用車	157	73.4
新幹線	32	15.0
鉄道（新幹線以外）	36	16.8
飛行機	6	2.8
高速バス	7	3.3
路線バス	8	3.7
観光バス	12	5.6
レンタカー	17	7.9
その他：	2	0.9

※ ■1位、■2位、■3位

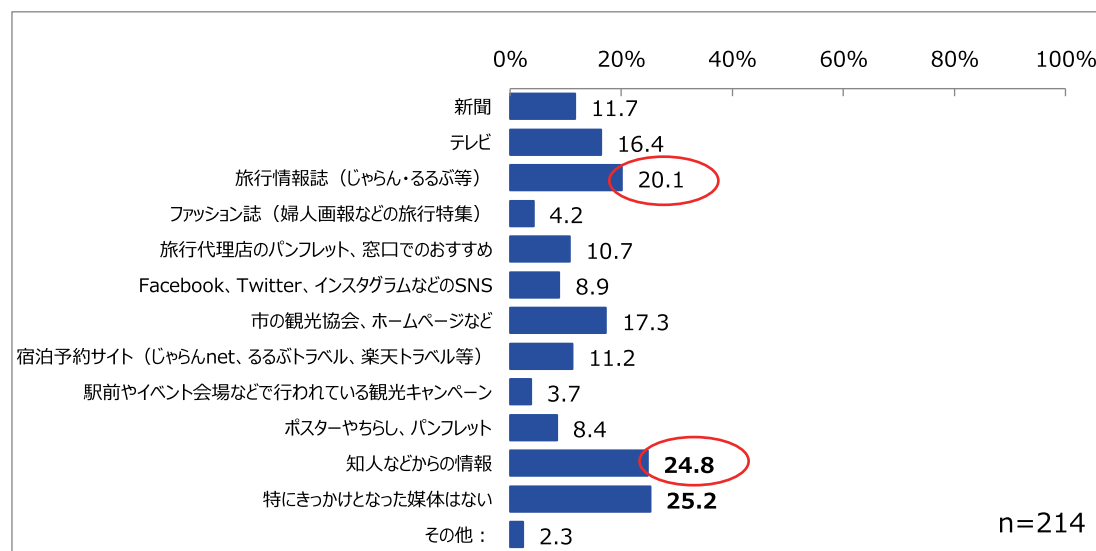
■旅行目的

・旅行目的は「風景」が最も多く、次いで「歴史・文化」、「食事」、「癒し・安らぎなど精神的充足」の順となっています。



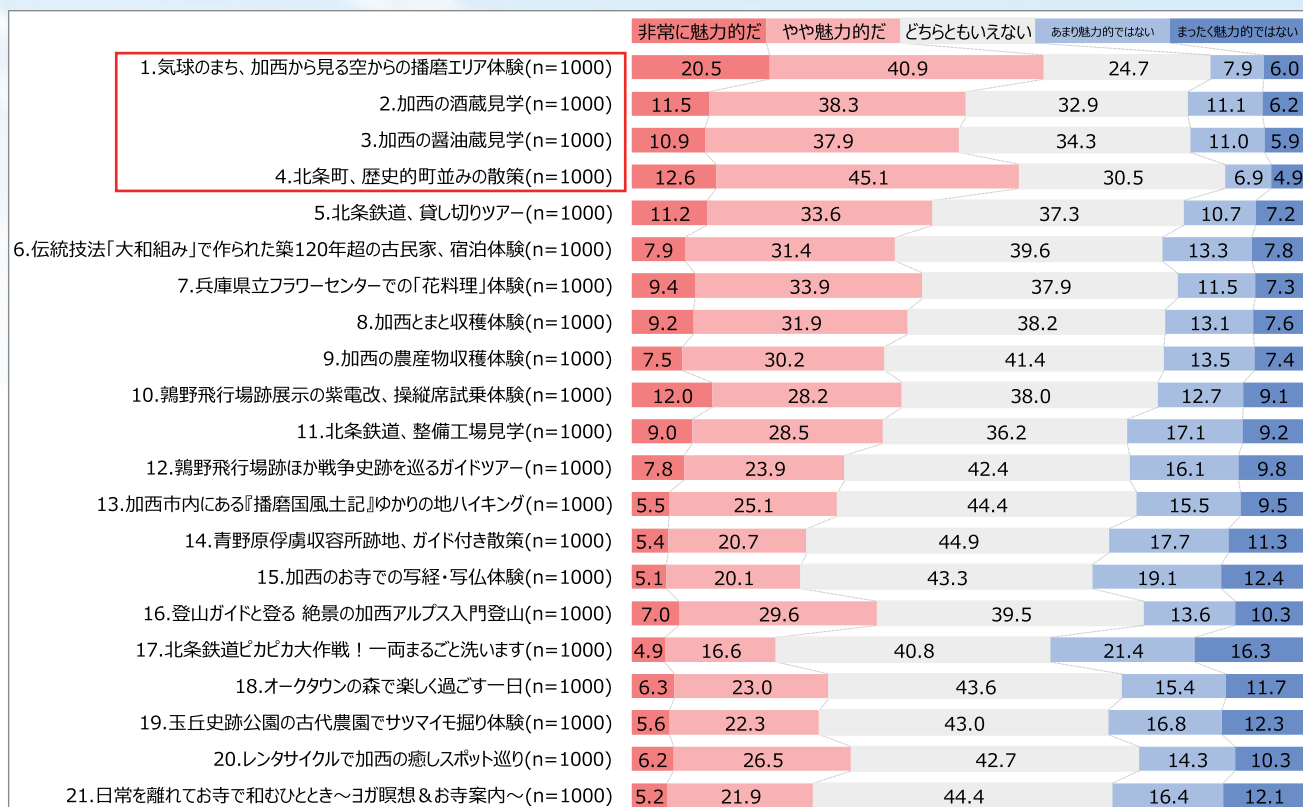
■情報の入手方法

・情報の入手方法としては、「知人などからの情報」や「旅行情報誌(じゃらん・るるぶ等)」が多くなっています。



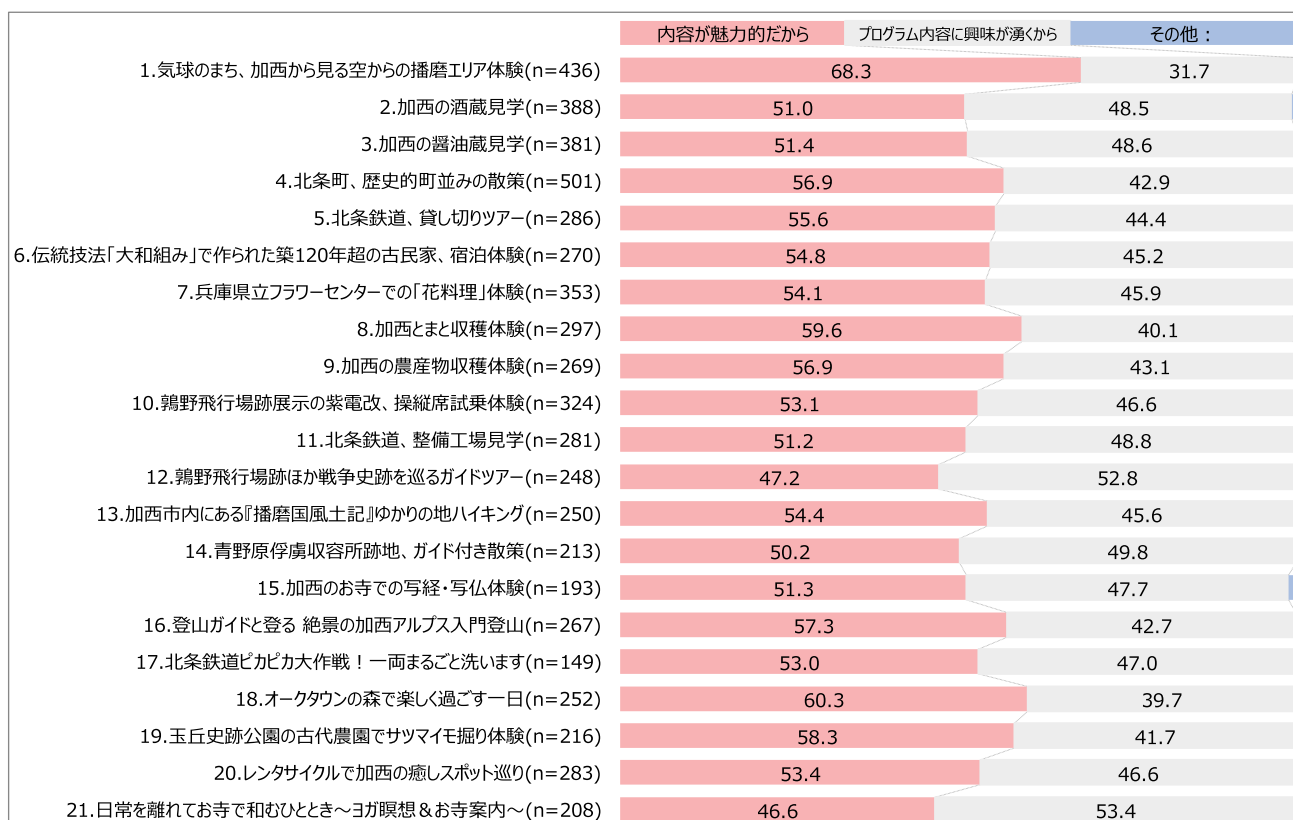
■地域資源を組み合わせた体験プログラムへの興味

・プログラムへの興味に関しては「気球搭乗体験」「北条町、歴史的町並みの散策」「酒蔵・醤油蔵見学」の順となっています。



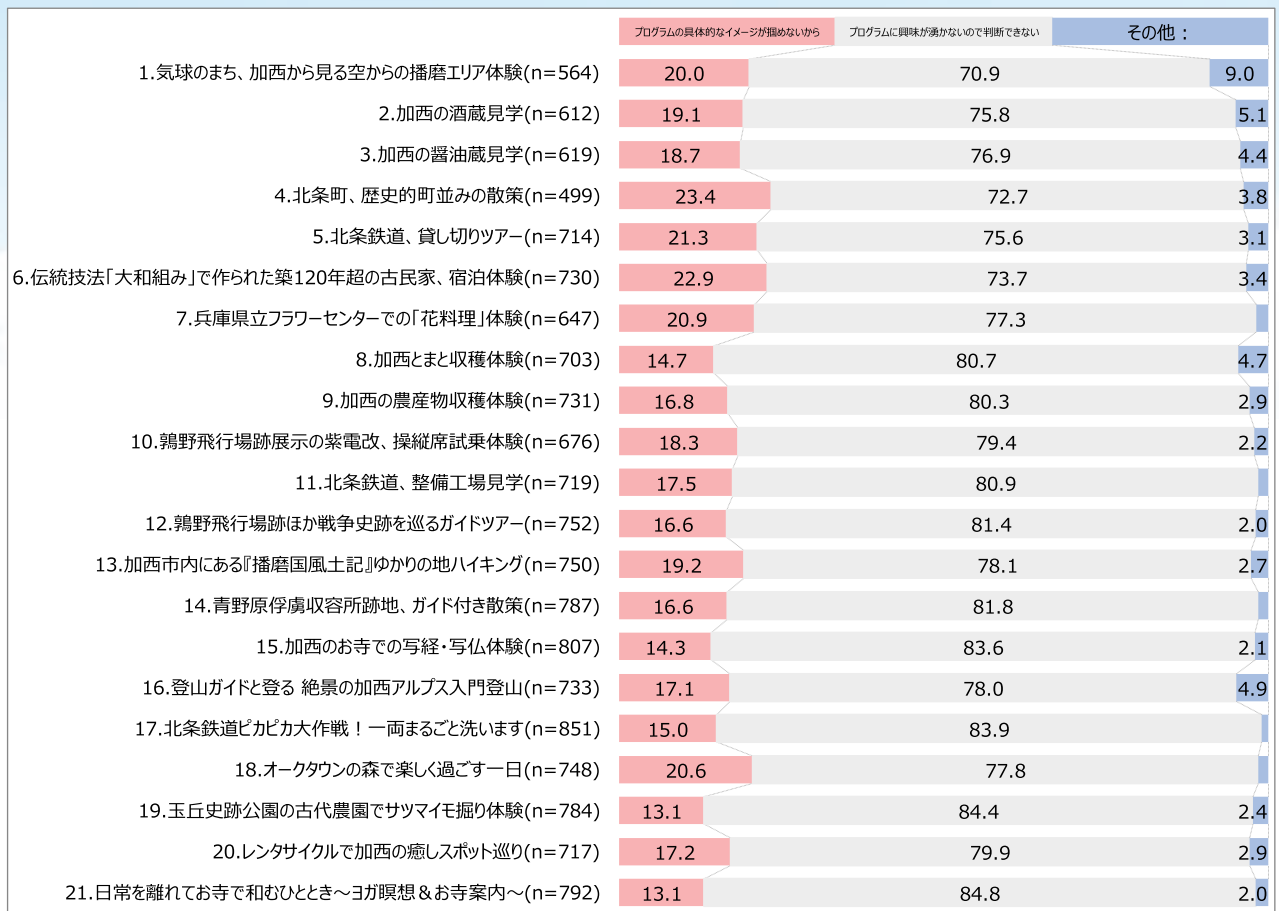
■地域資源を組み合わせた体験プログラムへの参加理由

・プログラムへの参加理由については、内容が魅力的と内容に興味を湧くと回答した割合が半数ずつあります。



■地域資源を組み合わせた体験プログラムへの不参加理由

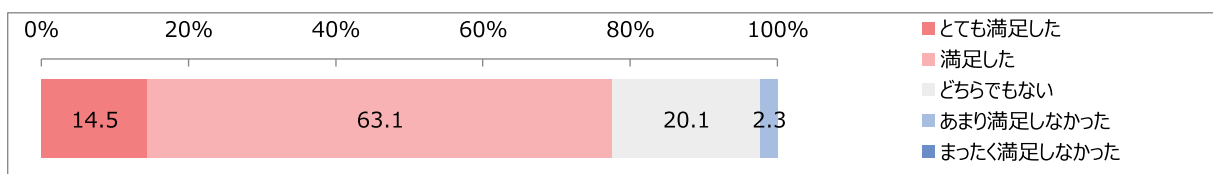
・不参加の理由としては、約7、8割が「プログラムに興味がないので判断できない」と回答しています。



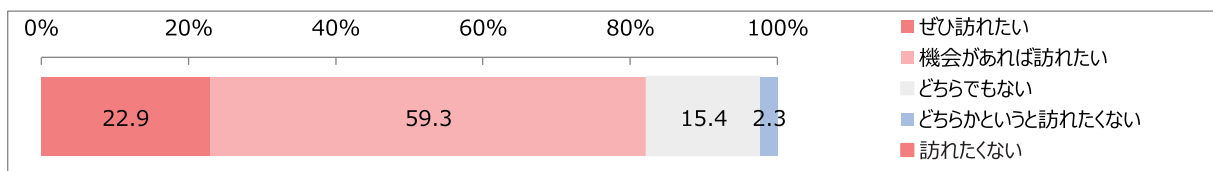
■総合満足度・再来訪意向

・来訪時の総合満足度は77.6%(*1)となっており、再来訪意向は82.2%(*2)となっています。

(※1)総合満足度



(※2)再来訪意向

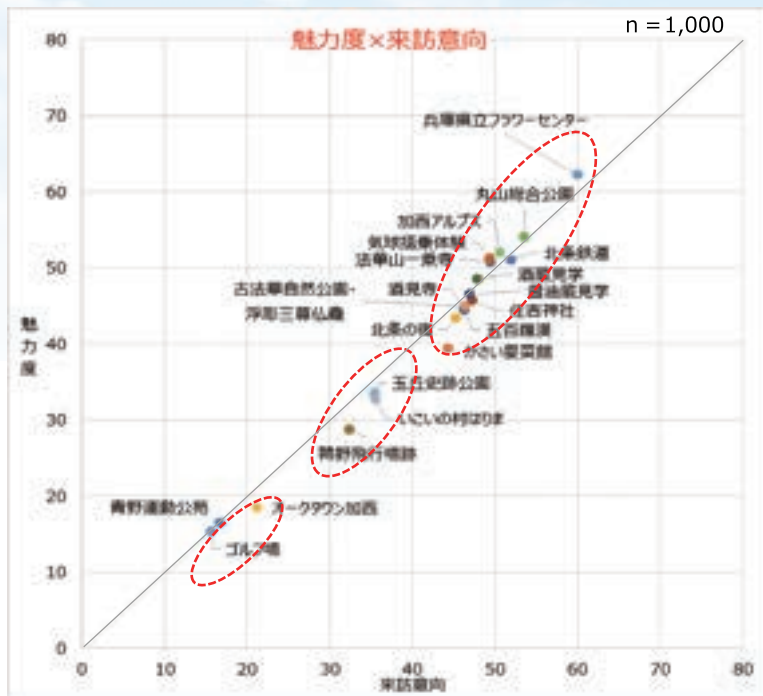


◆クロス集計

《観光資源》【魅力度 × 来訪意向】

・魅力度の高い資源は、来訪意向も高いという結果になりました。

〔総数〕



兵庫県立フラワーセンター



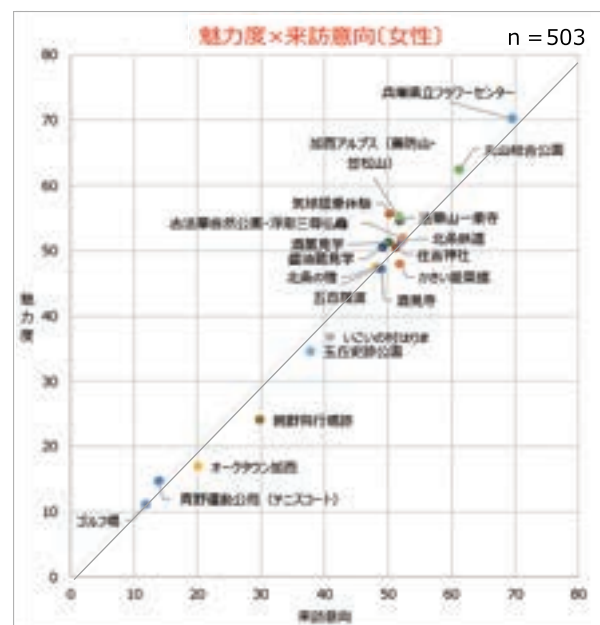
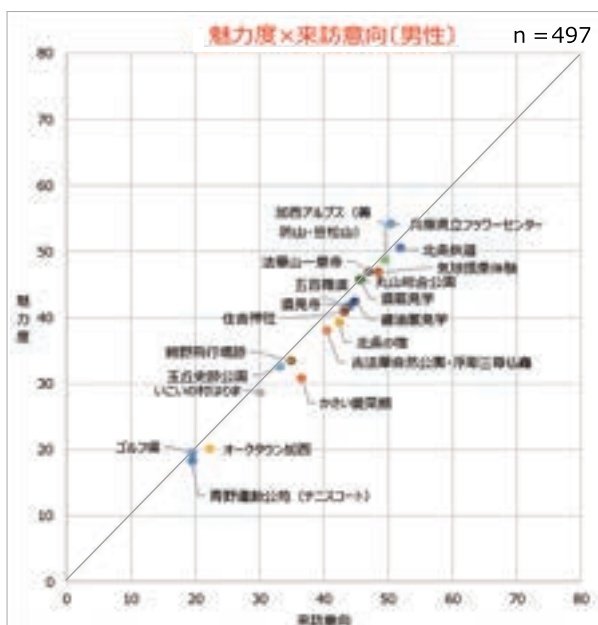
北条鉄道 (キハ40)



・男女別にみると、女性の方が魅力度・来訪意向が強い傾向にあることがわかりました。

〔男性〕

〔女性〕



鵜野飛行場跡



かさい愛菜館

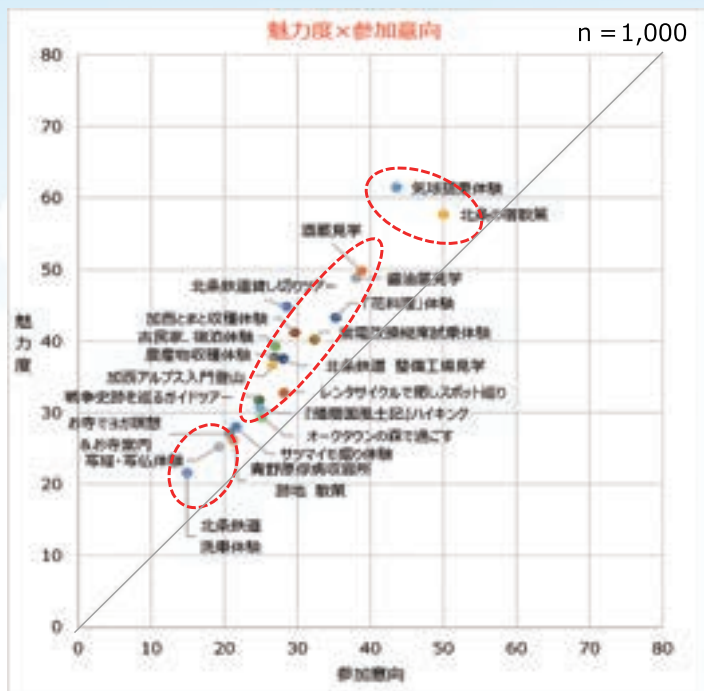


五百羅漢

《体験プログラム》

・体験プログラムについては、魅力度は高いものの、来訪意向にはなかなかつながっていないことがわかりました。

〔総数〕



気球搭乗体験

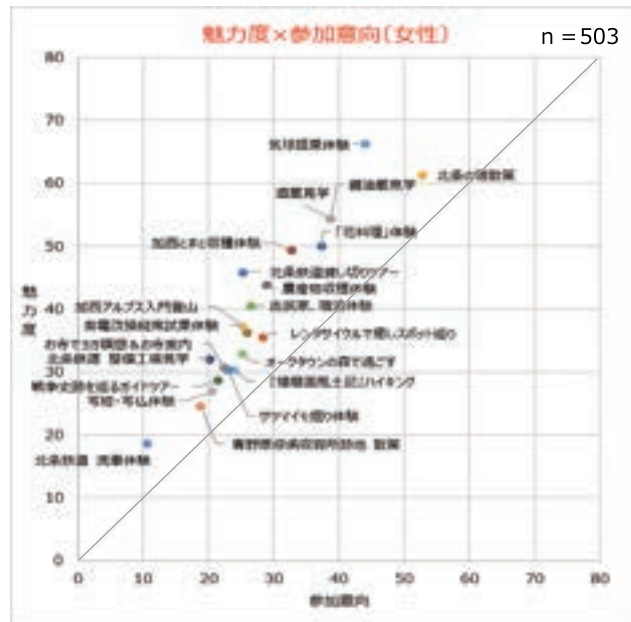
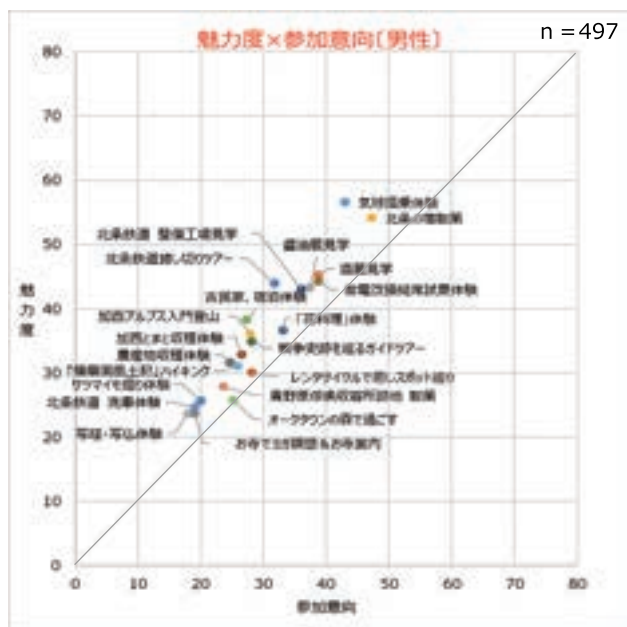


北条鉄道 検修庫見学

・男女別については、大きな差を見ることはできませんでした。

〔総数：男性〕

〔総数：女性〕



北条の宿 町並み散策



soraかさい



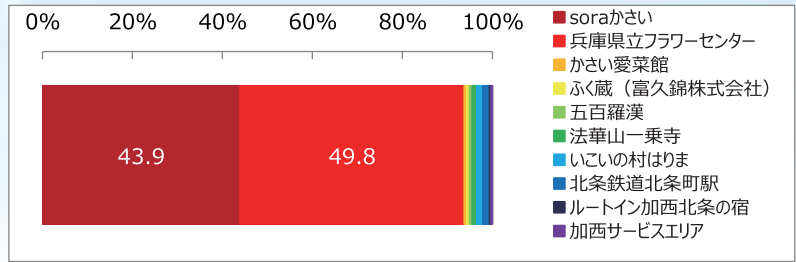
酒蔵見学

②施設来訪者アンケートによる観光客のニーズ(N=606)

■来訪施設

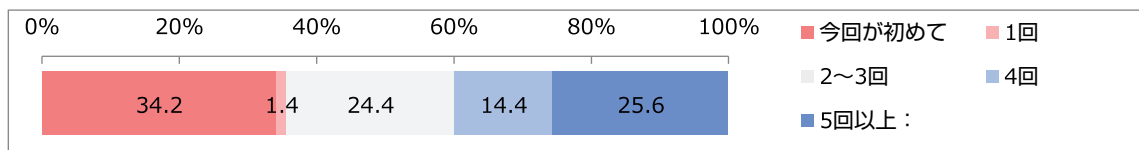
・調査実施施設のうち、兵庫県立フラワーセンターとsoraかさいへの来訪者が大半でした。

	n	%
全体	606	100.0
sora かさい	266	43.9
兵庫県立フラワーセンター	302	49.8
かさい愛菜館	4	0.7
ふく蔵(富久錦株式会社)	3	0.5
五百羅漢	4	0.7
法華山一乗寺	6	1.0
いこいの村はりま	8	1.3
北条鉄道北条町駅	9	1.5
ルートイン加西北条の宿	2	0.3
加西サービスエリア	2	0.3



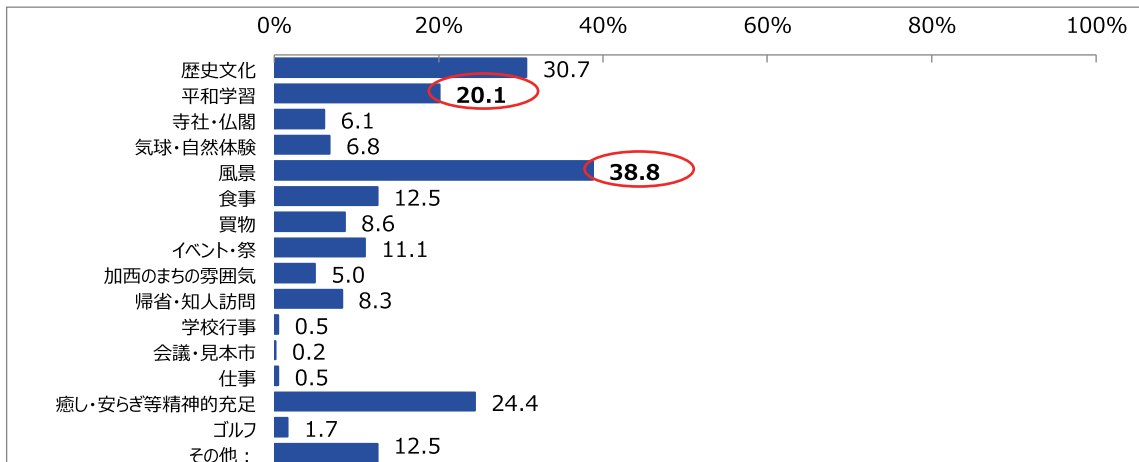
■来訪回数

・回答者の3割強が初めての加西市訪問でした。



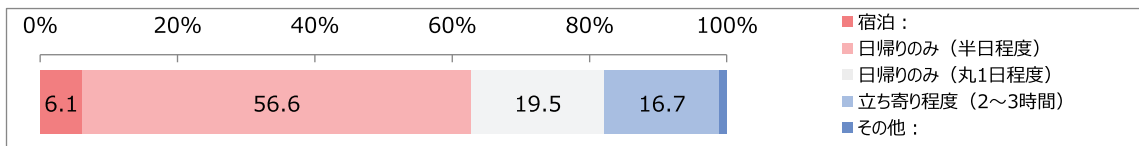
■旅行目的

・旅行目的は、インターネットアンケート結果と同様、風景が最も多かったが、インターネットアンケート結果では低かった平和学習を目的とする人が20.1%という結果になりました。



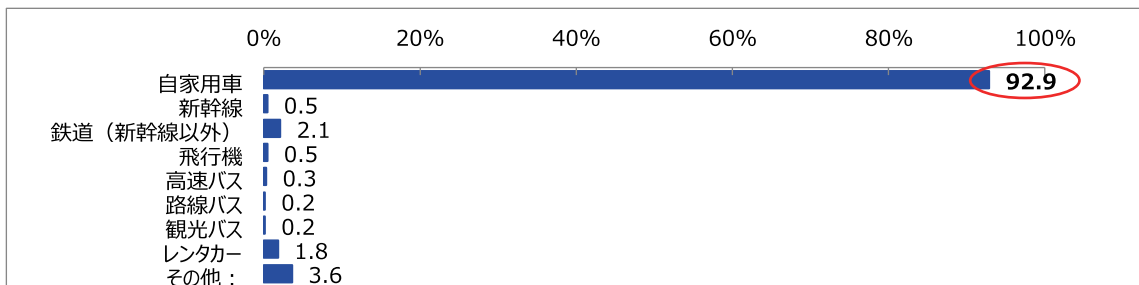
■旅行形態

・旅行形態については、日帰りや立ち寄り程度の人が92.8%を占めており、宿泊は6.1%でした。



■利用交通手段

・来訪手段としては、自家用車が92.9%でした。



■観光消費額

- ・加西市訪問時に市内で消費した平均金額は宿泊 33,572円、日帰り 10,889円でした。
- ・コロナ禍前の平成30(2018)年の『観光の実態と志向』データと今回の調査を比較すると、国内旅行の1人1回当たりの旅行単価に比べて、宿泊者でみると交通費は1万円程度、宿泊費は8千円程度低くなっています。お土産購入費は1,000円程度高く、飲食費、入場・拝観費、体験プログラム参加費、その他の合計は5千円程度高くなっています。

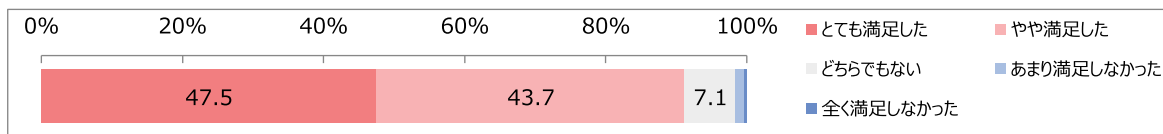
	平均値(宿泊) n=39	平均値(日帰り) n=567	※国内旅行の1人1回当たりの旅行単価(2018年)
交通費	2,068円	899円	13,500円
宿泊費	10,669円	—	18,900円
お土産物等購入費	5,572円	2,578円	4,510円
飲食費	5,968円	2,667円	9,760円
入場・拝観料	2,670円	1,038円	
体験プログラム参加費	1,625円	1,640円	
その他	5,000円	2,067円	
合計	33,572円	10,889円	

※(出典:公益社団法人 日本観光振興協会『観光の実態と志向』/平成30年度版)

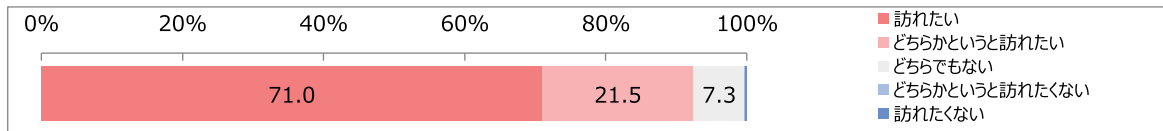
■総合満足度・再来訪意向

- ・加西市観光について総合満足度は「とても満足」「やや満足」の合計が91.2%(※1)でした。また再来訪意向は「訪れたい」「どちらかという訪れたい」の合計が92.5%(※2)でした。

(※1)総合満足度



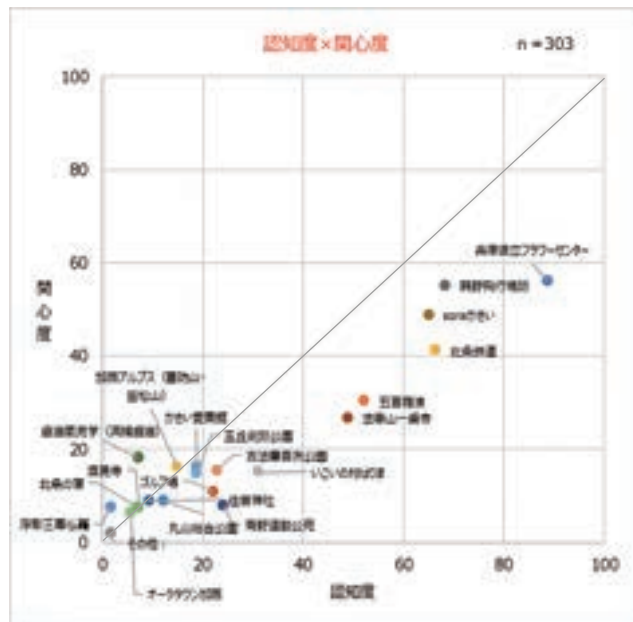
(※2)再来訪意向



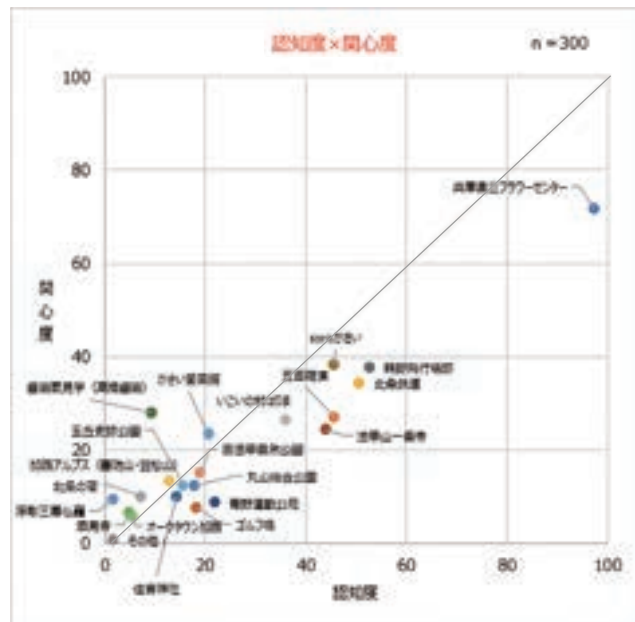
◆クロス集計

- ・認知度、関心度はいずれも低迷している施設が多いが、兵庫県立フラワーセンターへの認知度、関心度はずば抜けて高いことが分かりました。

(男性)



(女性)



(3) 市民の観光に対する意向(市民アンケート調査)

【観光の方向性】

既存の施設や自然、豊富な資源をうまく活かしてほしい、また「加西市」自体の知名度を向上させてほしい。

【観光に向けた活動】

B級グルメや銘菓など観光客にアピールできる食べ物の開発をしてほしい、景観を綺麗に保ってほしい、ターゲット層を明確化してほしい。

【情報発信】

SNSやテレビを含むメディアを有効活用した宣伝に力を入れてほしい、多種多様で楽しい既存イベントの情報発信の強化を望む。

【交通アクセス】

交通の便が悪いので、公共交通機関の充実を望む。

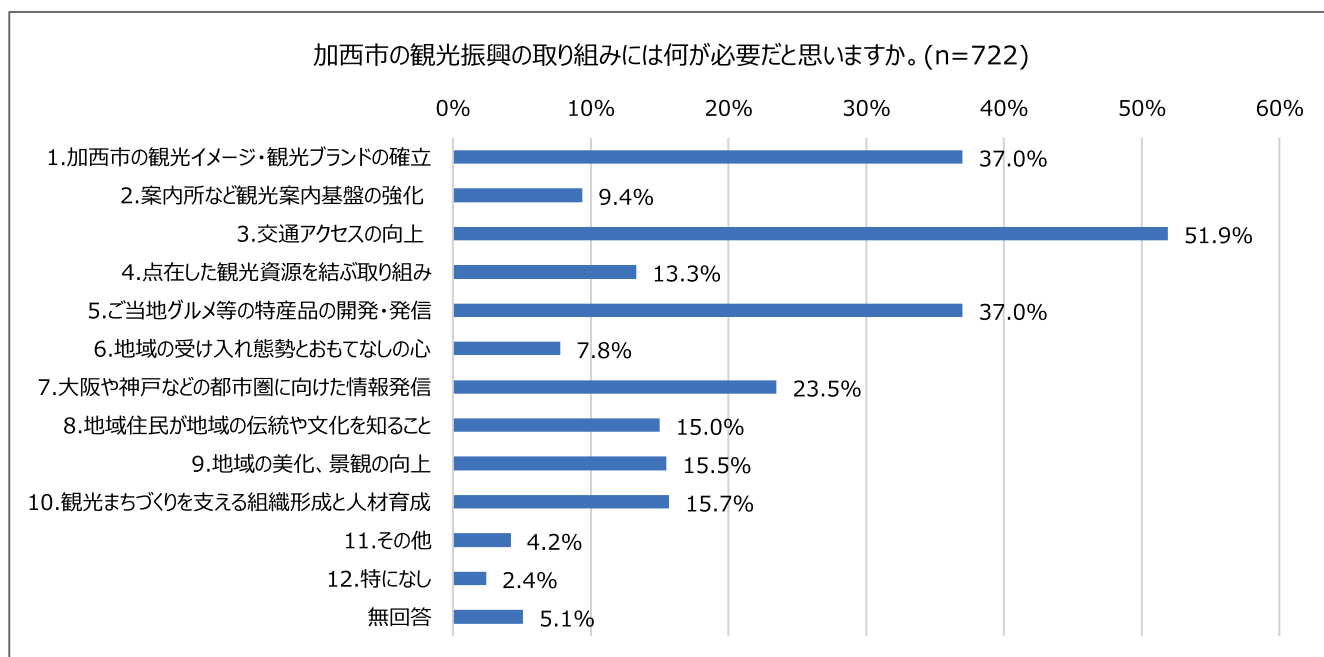
【観光施設】

大型商業施設の誘致や既存の施設の設備管理不足を改善すべき、また自然を活かした新たな施設・機関の設立を望む。

【イベント】

老若男女が参加しやすい積極的なイベントの開催と告知の強化、また気球を有効活用することで観光客が増える可能性がある。

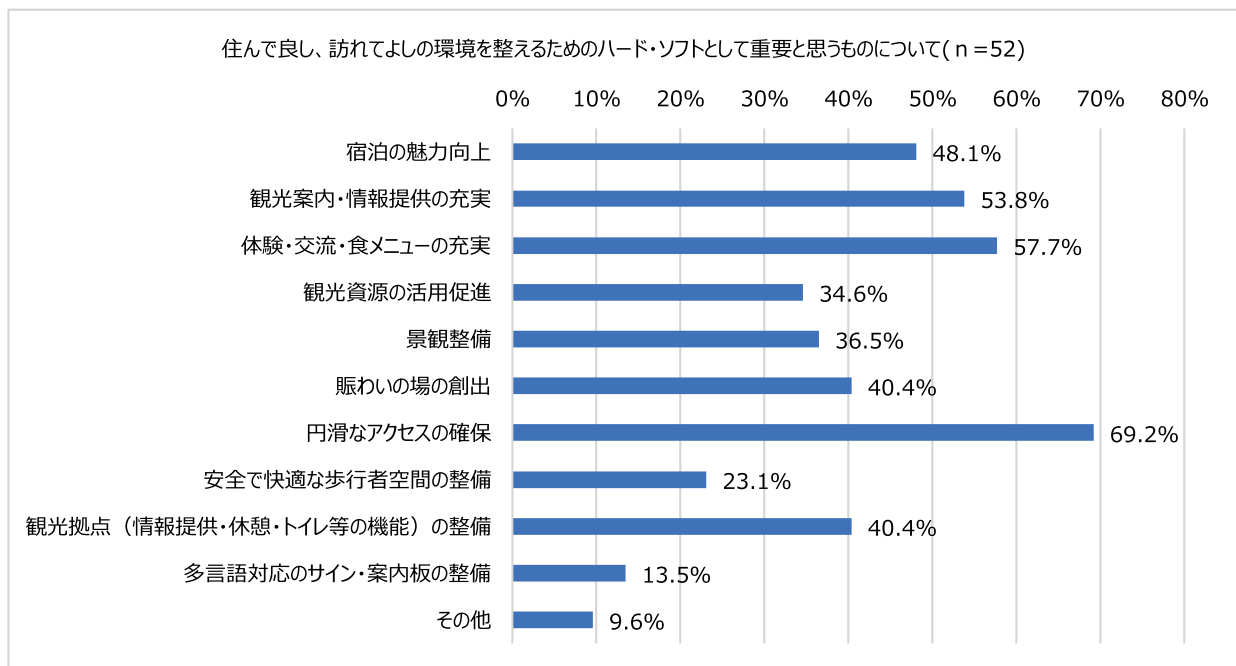
◆加西市の観光振興の取り組みに必要なもの



(4) 事業者の観光に対する意向や取り組みについて(事業者アンケート)

- ・今後の加西市の観光振興については、円滑なアクセスの確保が重要だと考える事業者が7割だった。
- ・他には、体験・交流・食メニューの充実や観光案内・情報提供の充実、宿泊の魅力向上、観光拠点(情報提供・休憩・トイレ等の機能)の整備が重要と考える。
- ・加西市観光についての情報誌などの店内設置が必要と考える。
- ・歴史的価値のある場所をそこにあったストーリーと共に理解できる仕組みづくりが重要であるという認識を持っている。
- ・気球のサポート活動、キッチンカーでイベントを盛り上げる。マルシェなどのイベントを企画、実行する。

◆住んでよし、訪れてよしの環境を整えるためのハード・ソフトとして重要と思うものについて



加西とまと



鶉野飛行場周辺戦争遺産



加西アルプス



「播磨国風土記」ゆかりの地
ハイキング



玉丘史跡公園の古代農園で
サツマイモ掘り体験



オークタウン加西の森



(1) 加西市の魅力創造ワークショップ(文化観光資源)(吉兼先生・玉岡先生)

① ファシリテーターのプロフィール

吉兼 秀夫氏

(観光魅力のパワーアップ分野)



《経歴》

- ・京都外国語大学特任教授
- ・第1次、第2次加西市観光推進基本計画策定委員会 委員長
- ・第2次加西市観光推進基本計画推進委員会 委員長
- ・奈良県明日香村、鳥取県若桜町、大分県竹田市等において着地型観光を指導

玉岡 かおる氏

(播磨国風土記をモチーフとした物語づくり分野)



《経歴》

- ・作家 大阪芸術大学教授
- ・神戸文学賞受賞、第25回織田作之助賞受賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞、大阪サクヤヒメ表彰特別賞をそれぞれ受賞、2021年文部大臣表彰(地域文化振興)
- ・平成4年4月、第41回新田次郎文学賞受賞『帆神 北前船を馳(は)せた男・工楽松右衛門』(新潮社)

② ワークショップの内容について

● 鶉野飛行場跡(soraかさい)について

- ・施設レベル、ストーリーもわかりやすく、戦闘機「紫電改」と「九七式艦上攻撃機」の実物大模型も見応えがありました。
- ・巨大防空壕内にて見た「姫路海軍航空隊特別攻撃隊「白鷺隊」に所属した隊員たちが残した遺書の映像はプロが制作しており、ぜひ訪れた人に見てほしいと思いました。
- ・広い空や滑走路跡を活かせたら良いと思います。
- ・鶉野飛行場跡でのオリジナル体験やPRになるものを開発できたら良いと思います。

● 平和教育やストーリーについて

- ・知覧がすでに有名なので、この地ならではのストーリーを考える必要があります。
- ・単に戦争はいけないと嫌戦のムードを作るのではなく、どうしたら戦争を防げるのかを考えるきっかけにできたら良いと思います。ただの悲劇として伝えるだけなら、もう聞き飽きてリアリティーがないように思うので、鶉野から飛び立った人たちが後世の私たちに残してくれたものは何なのかをかみしめる場にできたらと思います。

● 北条の宿について

- ・当時の歴史を物語る施設が少ないため、観光としては物足りないと感じてしまいます。街歩きガイドを生かすと良いと思います。

● 食との連携について

- ・富久錦で酒蔵ランチ、鶉野飛行場跡間をバス運行やツアーにできたら良いと思います。

●土一七日屋台農家レストラン

・加西市の食材を食べることができ、ジビエをはじめ豊富な食材を知ることが出来ました。観光にとって食はとても重要なのでうまくPRしていくことも必要だと思います。

●玉丘古墳について

・一般の人には古墳のイメージがつかないため、ドローンなど全景を見て魅力を伝える工夫が必要です。

●北条鉄道について

・北条鉄道を残し、今も活用できていることは、すばらしい資源だと思います。鉄道ファンは全国にもたくさんいるので、この鉄道を活かしてほしいと思います。

●キハ40形車両 駅前広場について

・秋田県能代市 東能代駅から青森県南津軽郡田舎館村 川部駅を結ぶJR東日本五能線を走っていた【キハ40形車両】について、もっと上手く活用できるのではないだろうかと思います。

●かさい愛菜館について

・その地域ならではのものを購入できるのは嬉しく、ぶどう、とまと、いちごなど旬を感じられ魅力的です。ただ知られていないのが残念。醤油などもう少しPRする方が良いと思います。

●自然環境について

・加西市を訪れて、とても自然豊かであることに驚きました。また、野鳥の越冬地である池もあるので、こういった物語もしっかり伝えた方がよいと思います。



(2) 食を中心としたブランド化推進ワークショップ（広里先生）

①ファシリテーターのプロフィール

広里 貴子氏



（食のコンテンツ開発・みやげ物開発分野）

《経歴》

- ・大阪あべの辻調理師専門学校の日本料理講師を経て(有)貴重を設立。関西の食材・食文化の魅力をあらゆる形で皆様に伝える活動に従事
- ・2013年、NHK連続テレビ小説で料理指導を担当以降、NHK大阪放送局制作の朝ドラを9回連続して担当。現在、商品開発、料理講習、メディアへの技術提供等幅広く活躍中。

②ワークショップの内容について

- 食べ物にはストーリー性を入れると非常に観光性が上がり、味だけではなくて+αのメッセージも伝えることができます。
- 地産地消で食材をうまく活用していくために、地元での流通のルート確保は非常に重要だと思います。できないからあきらめるのではなく、できない理由を把握し、そこをみんなで補っていくことができれば良いと思います。

- ここでしか味わえない特別感を料理の献立に組み込めば、観光性が出ます。リピーターが増え、口コミで広がっていくのではないかと思います。
- 加西市は風景のイメージが強いが、なかなかそれを表現する食材がなく、難しく感じます。
- 加西市のソウルフードとして、炊き込みご飯、かしわ飯、混ぜご飯が、いろんなお店で出るという選択肢が作れたらと思っています。
- 混ぜご飯をレトルトにできたら、お土産にもなると思います。
- 混ぜご飯のように「混ぜる」というアクションがある、一手間みんなで共有するものが今のトレンドでもあります。
- 加西とまとでトマトピューレをつくってナポリタンやオムライスにして提供できたら良いと思います。ベースとなるトマトピューレを作って、後は各お店でアレンジしてもらおう。ただ、加西とまとのトマトピューレを使うと、コストが高いので、A級品で出荷できない、果物で言えば、ジャム用のとまとでピューレをつくるのはどうかと思います。
- とまとはシーズンが決まっているものなので、ソースにしてしまえば年中皆さんが食べられて、楽しめると思います。
- 加西市や観光協会から指示されるとプライドの高い飲食業界はなかなか動きづらいので、リーダーとなる店舗があって、流行りを作り出し、そこから周りが切磋琢磨しながらその地域のB級グルメを作っていくのがいいと思います。
- 今回のワークショップで出てきた意見で共通しているのは、古いものを掘り起こすことと、新しいものをつくること。そして加西市のものを子供たちに食べてもらいたいということだと思います。
- 加西市と言ったらとまとのイメージが一番強く、昔からあるポピュラーな食材でもあるので、とても使いやすい、年配の方も若い方も食べられて、汎用性もすごく広い食材だから、それをテーマにするのがいいと思っています。
- 食文化と一緒に、食と観光というのをセットで考えるというのが、非常に大切だと思います。
- 観光において食の果たす役割は、帰って誰かに話したくなるものだったかどうか。それによって、そのまわりのことを語る機会ができるので、何か話したくなるような+αも盛り込んでいくのが、食の一番果たすべき使命だと思います。
- 高齢化により昔ながらを知っている人たちが減少してしまうので、受け継いでくれる若い方と一緒にプロジェクトができたら良いと思います。



(1) 第6次加西市総合計画(令和3～12年度)

第6次加西市総合計画

計画年度を令和3～12年度とする第6次加西市総合計画では、次に示す基本理念を掲げ、将来都市像を『大空に 夢がふくらむ「未来(みらい)の田舎(いなか)」かさい』としています。



基本理念 未来を拓く協創のまち加西～豊かな自然、育まれた歴史、深まる絆を活かして～
将来都市像 大空に 夢がふくらむ「^{ミライ}未来の^{イナカ}田舎」かさい

そして、これを実現するため4つの基本方針を掲げています。

【4つの基本方針】

- 基本方針1 子育てを応援し、暮らしを愉しむ
- 基本方針2 活力とにぎわいのあるまちを育む
- 基本方針3 快適に暮らせる安全な社会をつくる
- 基本方針4 ともに活躍しまちの魅力を高める

観光振興は「基本方針2 活力とにぎわいのあるまちを育む」の「政策7 地域資源の活用と人の流れの創出」において、未来の加西市の姿として「地域資源を十分に活かし、加西市に訪れたいと感じる魅力あるまちを目指します。」と描かれています。

その主な施策は、次の3つで構成されています。

- 歴史・文化の再発見と交流拡大
- 移住・定住の支援
- 空き家・空き店舗の利活用

未来の姿を実現するため、各主体に期待する役割

市民ができること	団体・事業者ができること
○市民一人ひとりが広報担当となり、まちの魅力を伝える	○移住者が地域や職場で活躍できる機会を提供する

まちづくりの主な指標

まちづくりの主な指標	現状値(R元)	中間値(R7)	目標値(R12)
観光入込客数 ※加西 サービスエリア 利用者数は除く年間客数	914 千人	1,100 千人	1,150 千人
若者の残存定住率 80% ※3月31日現在の 26-28 歳の人数÷10年前の 16-18 歳の人	78%	80%	82%

(2) (仮称)道の駅加西整備基本構想(令和4年3月)

(仮称)道の駅 加西整備基本構想

集客交流施設となる「(仮称)道の駅加西」の基本構想が令和4年3月に策定されました。

整備の候補地は、道の駅の採択基準に基づき、右図の3箇所から事業実現性と周辺環境との調和の観点により、鶺野飛行場跡周辺を選定しています。

基本構想概要版から「コンセプト」「導入機能(案)」と転記すると次のようになります。



【コンセプト】

現在の鶺野地域は、“鶺野飛行場跡を核とした平和学習(sora・空)の拠点”であり、近年注目され、集客力も高まっているが、滞在時間が短く、消費につなげていない状況にあります。

この課題解決の1つの方法として道の駅整備を捉えるものとし、鶺野地域と市内にある各施設をつなぐ“ハブ機能”を持たせることが必要であります。

鶺野地域の重要なテーマとなる「平和・学ぶ」をキーワードとした“sora(空)”に加え、加西市が積極的に取り組んでいるゼロカーボン戦略の実現やDXの推進等、“ミライ”志向も取り入れることで、これまでになかった道の駅を実現することが可能となります(Kasai-Society5.0)。

【導入機能(案)】

コンセプト実現のために、道の駅の基本3機能(休憩機能、情報発信機能、地域連携機能)のほか、防災機能・交通結束機能を導入し、これに加え地域交流機能には、加西市の1次産業、2次産業、3次産業それぞれの振興とそれらを掛け合わせた新たな産業のイノベーションを促進する施設やサービスを導入するとしています。

また、コンセプトの1つとして、“ミライ”志向を掲げていることから、加西市として取り組んでいるゼロカーボン戦略の実現やDXの推進等を実現する機能を導入することが構想され、隣接地に誘致が予定されているデジタルビルにおいては、様々な未来の技術に関する企業の入居が想定されており、それらの企業が道の駅を社会実験やマーケティングに活用する将来を見据えて、受け皿となるための設備やインフラ、空間を準備しておくことが必要とされています。

導入機能		施設イメージ
休憩機能		● 駐車場(小型車、大型バス、大型貨物車) ● トイレ(男性、女性、多目的、キッズ) ● 授乳室
情報発信機能		● 情報発信コーナー (コンシェルジュコーナーと一体)
地域連携機能	1次産業の振興	● 農産物直売所 ● 地産地消レストラン ● テストキッチン・セミナールーム
	2次産業の振興	● 展示室 ● ものづくり体験工房
	3次産業の振興	● コンシェルジュコーナー (情報発信コーナーと一体)
防災機能		● 芝生広場(防災広場、ヘリポート)
交通結束機能		● (パークアンドライド可能な駐車台数の確保)
地域交流機能		● 目的研修室
		+
未来の技術を受け入れることができる環境		● 新技術のショールーム機能 ● 新技術の社会実験フィールド ● 新技術類似体験機能



6 第2次加西市観光推進基本計画の検証

第2次加西市観光推進基本計画において設定された成果目標に対する達成率は次のようになっています。

○全体の成果指標

令和2(2020)年度以降、コロナ禍の外出制限や感染拡大の心理的な不安感等が高まったものの、鶺野飛行場跡を利活用した気球体験やsoraかさいを訪れる人が拡大したこともあり、目標値を上回る結果となりました。

指標	現状値 平成 28 年度 (2016 年)	目標値 令和 4 年度 (2022 年)	実績 令和 4 年度 (2022 年)見込み数値	達成率
加西市観光入込客数	87.1 万人	100 万人	110 万人	110%

○戦略ごとの成果指標

《戦略1 加西らしい観光まちづくりの推進》

かさいまちあそびの年間参加人数は、コロナ禍の外出制限や感染拡大の心理的な不安感等から目標値を下回る結果となりました。鶺野飛行場跡観光誘客年間数は、鶺野飛行場跡でのsoraかさいの開館や気球等の効果が重なり、目標値を飛躍的に上回る結果となりました。

指標	現状値 平成 28 年度 (2016 年)	目標値 令和 4 年度 (2022 年)	実績 令和 4 年度 (2022 年)見込み数値	達成率
かさいまちあそびの年間参加人数	836 人	1,000 人	494 人	49.4%
鶺野飛行場跡観光誘客年間数	8,000 人	16,000 人	101,556 人	635%

《戦略2 観光まちづくり人財(※)の育成と体制の充実》

かさいまちあそび主催者数は、上記の年間参加者数と同様に、目標値を下回る結果となりました。観光ガイド回数は、コロナ禍による行動変容から教育旅行で近場が選ばれ、soraかさいを訪れる学校が令和3年度の約50校から令和4年度は100校を超える規模に拡大したことから目標値を大きく上回ることになりました。

指標	現状値 平成 28 年度 (2016 年)	目標値 令和 4 年度 (2022 年)	実績 令和 4 年度 (2022 年)見込み数値	達成率
かさいまちあそび主催者数	43 団体	50 団体	31 団体	62%
観光ガイド回数	134 回	150 回	271 回	180%

※人財：「人＝財産」と捉え、組織にとって人は財産であるという考え方

《戦略3 観光まちづくりで「潤う」ための仕掛けづくり》

地元の新鮮な野菜を求める消費者ニーズの浸透に応える生産者の生産意欲の拡大もあり、加西喝采ブランド品数は大きく拡大しました。加西産農産物提供店舗数は目標値に至りませんでした。PRブース年間開設数は、コロナ禍の外出控えもあり、目標に至りませんでした。

指標	現状値 平成 28 年度 (2016 年)	目標値 令和 4 年度 (2022 年)	実績 令和 4 年度 (2022 年)見込み数値	達成率
加西喝采ブランド品数	30 品目	35 品目	55 品目	157%
加西産農産物提供店舗数	12 店	20 店	15 店	75%
PRブース年間開設数	12	17	10	59%

《戦略4 観光まちづくりを支えるインフラの整備》

フェイスブック「いいね！」件数は、鶺野飛行場跡でのsoraかさいの開館や気球の取り組み状況の発信が拡大し、大きく拡大しました。北条鉄道の年間利用者数、北条鉄道の乗降客数(定期外)は、コロナ禍の外出控えもあり、目標値に至りませんでした。宿泊者数は、民間ホテルの開業や観光目的以外の宿泊利用拡大もあり、平成28(2016)年度より増加しましたが、コロナ禍の外出控えもあり、目標値に至りませんでした。

指標	現状値 平成 28 年度 (2016 年)	目標値 令和 4 年度 (2022 年)	実績 令和 4 年度 (2022 年)見込み数値	達成率
フェイスブック「いいね！」件数	1,434 件	2,000 件	5,600 件	280%
北条鉄道の年間利用者数	340 千人	380 千人	390,000 人	102.6%
北条鉄道の乗降客数(定期外)	149 千人	200 千人	162,800 人	81.4%
宿泊者数	3.5 万人	5 万人	61,500 人	123%

◆令和4(2022)年度の数値は見込み数値

7 加西市観光の強み・弱み・機会・脅威

加西市観光の強み・弱み及び機会・脅威を一覧にし、整理すると次のようになります。

	強み	弱み
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫県立フラワーセンターという全国でも有数の花と緑の植物園がある ・食や歴史文化の資源性がある ・北条線を残し、今も活用できている北条鉄道がある ・野鳥の越冬地である池があるなど、自然豊かな地域である ・豊かな農村風景がある ・北条の宿の街並みは趣がある ・法華山一乗寺や五百羅漢は有名であり、観光価値も高い ・ゴルフ場が多くある ・兵庫県立フラワーセンターやイオンモール加西北条は集客力がある ・平和学習の地として、鶴野飛行場跡(soraかさい)に教育旅行生が多く訪れている ・広い空と滑走路跡があり解放された空間がある ・加西とまと、加西ぶどう、加西いちごなど魅力ある特産品がある ・気球が飛行できる素晴らしい環境がある ・多種多様な異業種のものづくり産業が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセスが不便 ・北条の宿の街並みは当時の歴史を物語る施設が少ないため、観光としては物足りない ・市内での飲食や買い物、宿泊といった消費活動が十分に行われていない ・独自の文化に根ざした地域資源の魅力など豊富な資源を十分に活かしてきていない ・宿泊施設数や収容人数が少ない ・事業者間での連携は十分でない ・地産地消で食材をうまく活用していくため流通のルート確保が十分でない ・集客につながるような施設が少ない ・特攻隊については、知覚がすでに有名なので、この地ならではのストーリーを考える必要がある ・インバウンド対応が未熟 ・日本遺産に認定された「西国三十三所観音巡礼」の札所があるものの、通過点である
	機会	脅威
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で求められるオープンエアな環境があり、行動制限を緩和し、感染リスクを抑えながら経済活動を再開する動きや全国旅行支援による国内旅行の活発な動きを受け止める環境がある ・加西インターチェンジ、加古川北インターチェンジが近い ・地域で生まれ育ったことのない人が関係人口となって、地域づくりに関わる流れが進行している ・観光の志向が本物の地域文化や自然に身を置き、あたかも暮らしているように時間を過ごし、訪れた先の人達とのコミュニケーションを楽しむコト観光に変化してきている ・個々人のライフスタイルが多様化し、観光に対する価値観が広がっている ・インバウンドの個人観光旅行の入国再開により、今後、国際交流の復活に向けた動きが加速していく ・日本遺産に認定された「西国三十三所観音巡礼」の札所がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンエアを活用した関係人口・交流人口の拡大への取り組みは全国各地で進んでいる ・少子高齢化、人口減少が進んでいる ・全国的な人口減少、後継者不足による地域の衰退(地区活動の共同体の減少など、地区ごとの課題も増加) ・コロナ禍により、経済成長率が大きく下方修正された地域ではインバウンドの伸び率も大幅に下がる傾向にある

【強み・弱み・機会・脅威のクロスによる展開方向】

	機会	脅威
強み	<p>視点: 機会を捉えて強みを最大に活かす方法はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々人のライフスタイルを豊かにする観光展開を図る ・来訪者が多い「soraかさい」「兵庫県立フラワーセンター」「北条鉄道」へ訪れる観光行動を、市内の様々なエリア、観光資源に誘う施策展開を図る ・暮らし文化に起因する資源の源となる農業(お米やとまと栽培)を観光から活性化させる 	<p>視点: 脅威を回避するためにとれる、強みを活かした方法はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内に点在する暮らし文化に関する観光資源をリデザインして組合せ、市民との交流を加えて魅力創出を図り、市内における観光消費の拡大に結び付ける
弱み	<p>視点: 弱みによって機会を逃さないためにとれる方法はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲットを絞りこみながら、市民や地域のネットワークを広げ、来訪者と市民がつながる観光まちづくりを推進する ・市民や事業者と一緒に地域資源の磨き上げと掘り起こしに取り組む活動を推進する 	<p>視点: 弱みと脅威によって受ける事態を軽減する方法はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光まちづくりに向け、居心地よい“まち”へと観光を掘り起こし、住んでよし訪れて良しの加西市を多角的にブランディングし、マーケティングを図る ・市民と来訪者とのコミュニケーションやストレスフリーの移動環境等の充実による居心地よい“加西市”を実現する

8 課題と取り組み方向

(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし

- ・加西市を訪問した人がまた来訪したいと思ってもらえるような地域の魅力づくりが必要です。
- ・地域で連携し、観光客を受け入れる体制づくりから始める必要があります。
- ・観光資源の持つ魅力を掘り起こし、ブラッシュアップをする、観光客が定期的に訪問したくなるようなイベントの実施、その季節にしか体験できないようなプログラムや特産品の開発に地域全体で取り組む必要があります。
- ・事業者が中心となり、魅力的な施設づくりを目指すことも大切です。
- ・施設の特徴づくりや特産品の開発には、ターゲット層を絞った明確なコンセプトに沿う必要があります。
- ・市民からは景観をきれいに保ってほしい、自然を活かした新たな施設の整備、気球を有効活用するなどの提案があります。
- ・平和の大切さを伝える鶉野飛行場跡について、他の戦争遺跡とは違う特色づくりが必要です。
- ・北条鉄道を活用し、全国の鉄道ファンが何度も訪れたいように取り組む必要があります。
- ・加西市のソウルフードとして、混ぜごはんやとまとを使った加工品などをブラッシュアップし、観光資源につなげる必要があります。
- ・観光性を上げるため、「お米」と食材として「鶏」「とまと」、調理法として「混ぜる」を加えて食べ物にストーリー性を持たせていく必要があります。
- ・魅力ある施設が点在しているので、施設間を結ぶ仕掛けづくりが必要です。

(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信

- ・「加西市」は地名に一定の認知度はあるが、加西市の魅力や観光施設や特産品はまだ多くの人に知ってもらっているとは言えないのが現状です。
- ・様々な地域資源の魅力を外部に伝える情報発信力が不足しています。
- ・加西市近隣地域や来訪者ターゲットの居住地域に対する情報発信、広報活動が不足しています。
- ・加西とまと、加西ぶどう、加西いちごなど魅力ある特産物の良さのPRが不足しています。

(3) 受入環境の整備と人財育成

- ・加西市の観光資源は各地に点在しており、現状では、公共交通機関の利便性が高いとは言えず、このアクセスの悪さが加西市への再来訪を大きく阻害している要因となっています。
- ・観光施設間を循環するバスなどの交通機関の提供によるアクセスの改善などが望まれています。
- ・北条の宿の魅力を上向きさせるため、まち歩きガイドの育成やスキルアップに取り組む必要があります。
- ・少子高齢化により、昔ながらを知っている人たちが減ってしまうので、それを受け継いでくれる若い人と一緒にプロジェクトを立ち上げて伝承していく必要があります。

(1) 観光振興のコンセプト(将来像)

加西市の観光は、「風景」「気球の搭乗体験」「歴史文化」「癒し・安らぎ等精神的充足」「鶉野飛行場跡(soraかさい)を核とする平和学習」等を観光目的に、近年、多くの観光客が訪れています。

しかし、更に多くの来訪者を迎えるためには、soraかさいから市内の次の観光スポットへ誘う仕組みづくりや加西市の暮らし文化を組み合わせた体験プログラムの充実等が課題となっています。

加西市観光を振興していくためには、北条鉄道北条町駅及び北条の宿等を核とするエリアに加えて、鶉野飛行場跡(soraかさい) (隣接地に道の駅整備構想があります)の拠点性を高めることにより、2つの集客エリアを起終点に市内全体に観光客の流れが及ぶ仕組みづくりを用意していくことが大切です。

玉丘古墳や北条の宿のまちなみ等の歴史文化、ため池や周辺の丘陵の自然を活かした観光コンテンツの開発に取り組み、市民や来訪者を含めた全ての世代が気軽に立ち寄り、集い、にぎわう交流を生み出す観光の振興が求められます。

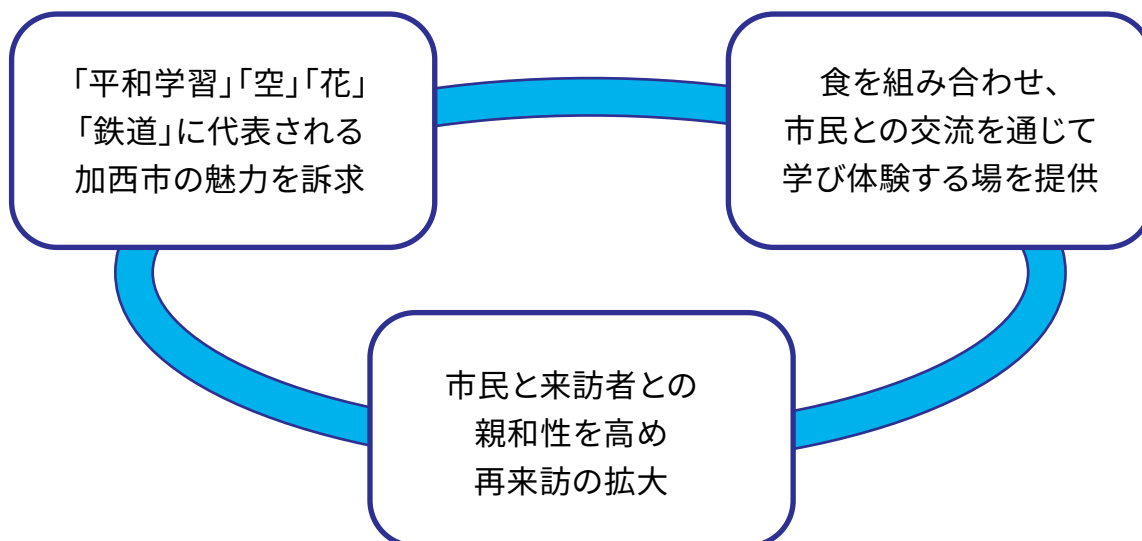
以上のことから、加西市の観光振興を図るコンセプト(将来像)として以下のように定め、計画を推進していきます。

〈観光振興のコンセプト〉

『学びと体験・平和を紡ぐまち加西』探訪

「平和学習」「空」「花」「鉄道」に代表される加西市の魅力を、食を組み合わせ、市民との交流を通じて学び体験し、親和性を高め次の来訪に繋げる

〈観光振興により実現する基本方向〉



(2) 基本目標

「学びと体験」により、加西市を探訪し、平和を礎に、空から気球による加西市の自然と人の営みがつくり上げてきたスケール感、花や草木・生きものを通して自然の大切さ、古墳やため池、まちなみ等を通して歴史文化を紡いでいくことの大切さ、産地の農産物を用いた食を通して暮らし文化を紡ぐ大切さ等を実体験する加西スタイルの観光を展開していきます。

《将来目標(KGI:重要目標達成指標)》

第3次加西市観光推進基本計画は、観光により地域が潤う加西市にしていくためには、「観光の振興により、市内各地域を訪れる観光客の満足度を高め、観光消費総額を増やすことで、加西市全体の経済社会が、将来にわたり持続的に発展する」ことを重視します。このことから、観光消費額総額をKGIとして設定し、本計画期間における目標数値を定めます。

※ KGI (Key Goal Indicator) とは、第3次加西市観光推進基本計画の最終目標を定量的に評価する指標です。

(KGIに関わる観光入込客数と観光宿泊者数設定の考え方)

観光庁「旅行・観光消費動向調査」及び「訪日外国人消費動向調査」から、全国における日本人観光客消費単価の10年間(平成24(2012)年から令和3(2021)年まで)の年間平均伸び率は2%となっています。withコロナ以降においても同様に推移すると仮定します。

観光入込客数について、コロナ禍前の令和元(2019)年に110万人であったことから、令和4(2022)年の行動制限の解除により、令和5(2023)年末には、このレベルまで回復すると想定し、以降の伸び率を、観光客消費と密接な関係となる観光消費額総額と同様の傾向で推移すると考え、令和9(2027)年の目標値121万人と設定します。

なお、soraかさい来場者数は、令和4(2022)年4月の施設開業以来、コロナ禍にも関わらず拡大していることを考慮し、年間10%拡大することとします。これにより、令和9(2027)年の観光入込客数を上記の121万に5万人を加え、126万人とします。

※来訪者アンケート令和2(2022)年による日帰り宿泊の平均消費単価は、日帰り:11,000円、宿泊:34,000円となっています。

		令和4(2022)年度 見込み数値	令和9(2027)年度
観光消費総額	日帰り	11,000円	12,100円
	宿泊	34,000円	37,400円
観光入込客数		110万人	126万人
教育旅行来訪学校数		112校	120校
soraかさい来場者数		10万人	15万人
北条鉄道	年間乗降客数	390,000人	430,000人

※令和4年度の数値は令和5年2月付けの見込数値です

コンセプトとなる『学びと体験・平和を紡ぐまち加西』探訪により市内での観光消費活動を活発化させるために、観光の環境整備を多方面から支え、加西市を代表するイベントの参加者数及び体験型旅行のコンテンツ数を設定します。

	令和4(2022)年度見込み数値	令和9(2027)年度
イベント参加数	43,500人	45,000人
体験型旅行コンテンツ数	0件	5件

※令和4年度の数値は令和5年2月付けの見込数値です

(3) 観光市場における加西市の立ち位置

withコロナでの観光は、「家族・少人数での旅行」「自然を楽しむ旅行」「地方都市圏を楽しむ旅行」に「体験する、地域の人たちと交流する、感動を共有する」が加わった方向に変化してきています。

観光の形態が団体から個人・気の合った人たちのグループ等に変化し、日ごろの気分転換ができることが重視され、その場所への行き方、そこでの過ごし方を提示することで訪問のハードルを下げるすることができます。

このようなニーズに適したターゲットは、播磨地域や神戸・阪神地域に居住する人たちとなります。現状で、このエリアからの訪問率が高いとはいえ、今回が初めての人が3割程度を占めています。加西市の観光情報に接する機会が少ないと考えられ、加西市の魅力を知ってもらうようにわかりやすい情報発信を積極的に行う必要があります。これらの情報発信は遠方の居住層に対しても同様に必要と考えます。

ターゲット層に選んでもらうためのポジショニングとしては、「風景」「気球の搭乗体験」「歴史文化」「癒し・安らぎ等精神的充足」「鶉野飛行場跡(soraかさい)を核とする平和学習」等の観光目的に、鶏と加西産のお米を食材とする混ぜる・炊くといった調理方法((仮称)加西めし)による食のコンテンツやとまと・アスパラガス、ぶどう、お酒等をPRすることで、食事や特産品の立ち寄り購入の消費拡大に結び付けることができます。また、再来訪の人が7割を占めていることから、訪れるたびに多様な楽しみ方ができる体験のコンテンツを用意していく必要があります。

〈セグメンテーション〉細分化した観光客のニーズ

- 都心部や自宅から離れた行きやすい場所で、自動車や鉄道等で訪れ気分転換を図りたい
- 地域のおいしい食を人との交流と共に楽しみたい
- 気球搭乗や平和学習、地域の人たちが紡いできた暮らし文化を体験したい

〈ターゲティング〉狙うべき観光客の対象者像

- 播磨地域や神戸・阪神地域に居住する人たち
- アクセスの良さや観光情報の利便性を把握していない層
- コロナ禍を経て従来の遠方から加西市を選択してもらった教育旅行の学校・団体

〈ポジショニング〉観光客に選んでもらうための位置取り

- 市民が紡いできた食や祭り、暮らし文化を体感できる過ごし方や楽しみ方が期待できる場所
- 鶉野飛行場跡(soraかさい)等の平和学習の場に適した場所
- 気球や北条鉄道、北条の宿、五百羅漢、兵庫県立フラワーセンター等の観光コンテンツがいくつもあり、何度訪れても楽しめる

有効なポジショニングを実現するためには、それぞれの事業領域において自身のペースで楽しめる過ごし方のイメージを提示する情報発信を行うとともに、繰り返し訪問するメリットを感じることができるよう、来訪歴の浅い人からリピーターまで楽しめる多彩なコンテンツの周知も必要となります。また、加西市の観光の全体のイメージとしては、鶉野飛行場跡で平和の大切さを感じると共に、

気球で大空を感じ、花やみどりで心と身体をリフレッシュする、北条の宿やまちなかで地域の人たちとの交流を図る等から生み出される温かみを観光の魅力として構成し、繰り返し訪問する楽しみがあることをPRしていくことが有効と考えます。

全体の共通したイメージを土台に、既存コンテンツの見せ方やPR方法の工夫、また、必要に応じて新コンテンツ開発を同時に進めることが効果的と考えます。

有効なポジショニングを実現するための訴求イメージ

各コンテンツに共通する 統一の観光イメージ

- 平和学習や地域の人たちが紡いできた暮らし文化が体験できる。
- グルメから伝統文化、アウトドアまで幅広い観光資源がある。

加西市観光全体で 訴求すべきイメージ

- 多彩なオリジナリティがある観光コンテンツにより、来訪歴の浅い人からリピーターまで、何度訪れても楽しめる。
- 街中も郊外も、どちらも違った楽しみ方ができる。

(4) 観光施策推進に果たす(一社)加西市観光協会の役割

(一社)加西市観光協会



観光は、農林業や商工業、地域の活性化や健康増進など、あらゆる部門と関係する総合産業です。加西市の観光は、鶉野飛行場跡及びsoraかさいを核とする「学びと体験・平和を紡ぐ観光」を主体とする展開により、教育旅行で訪れる学生・生徒の数が激増しています。

また、北条鉄道のキハ40の導入や気球の飛ぶまち加西の取り組みは、メディアでの露出機会を拡大し、これに伴い来訪者増に確実に結び付いています。

令和4(2022)年3月には、鶉野飛行場跡及びsoraかさいの隣接地に(仮称)道の駅加西(令和12(2030)年整備予定)を整備する構想が公表されました。

今後は、加西市をこれまで支えてきた中核エリア(北条鉄道北条町駅周辺)に加えて、soraかさいを核とするエリアの果たす役割が大きくなってきます。

withコロナ以降の観光の志向や行動変容に対応した取り組みは、旅行スタイルの変化や旅行ニーズの多様化、インバウンド観光の急激な伸張などの状況を的確に把握し、加西市ならではの魅力を発信するとともに、受け入れ体制の整備を進めることが求められます。

その最前線にある(一社)加西市観光協会の役割は、極めて重要となります。「地域づくりであり、人づくりである」と言われる観光をベースに、加西市の恵まれた自然や歴史・文化、多種多様なものづくり産業、鶉野飛行場跡という貴重な戦争遺産を加えた多様な地域資源を市民一人ひとりと共有し、誰もが地域に愛着を持ち、誇りの持てる都市を市民とともに作り上げていくことが重要となります。また、観光はすそ野の広い産業領域で構成され、地域全体へ経済効果を及ぼす産業であり、加西市の振興に貢献することになります。

第3次加西市観光推進基本計画に記載しています施策の取り組みにあたっては、(一社)加西市観光協会が中核となって、民間事業者や市民団体、市民とともに推進していくことが重要となります。

前項で示した観光の基本目標(将来像)を実現するため、観光振興の方針(方向性)を以下の3つに定めます。

3つの方針(方向性)

(1) 地域資源の磨き上げと掘り起こし

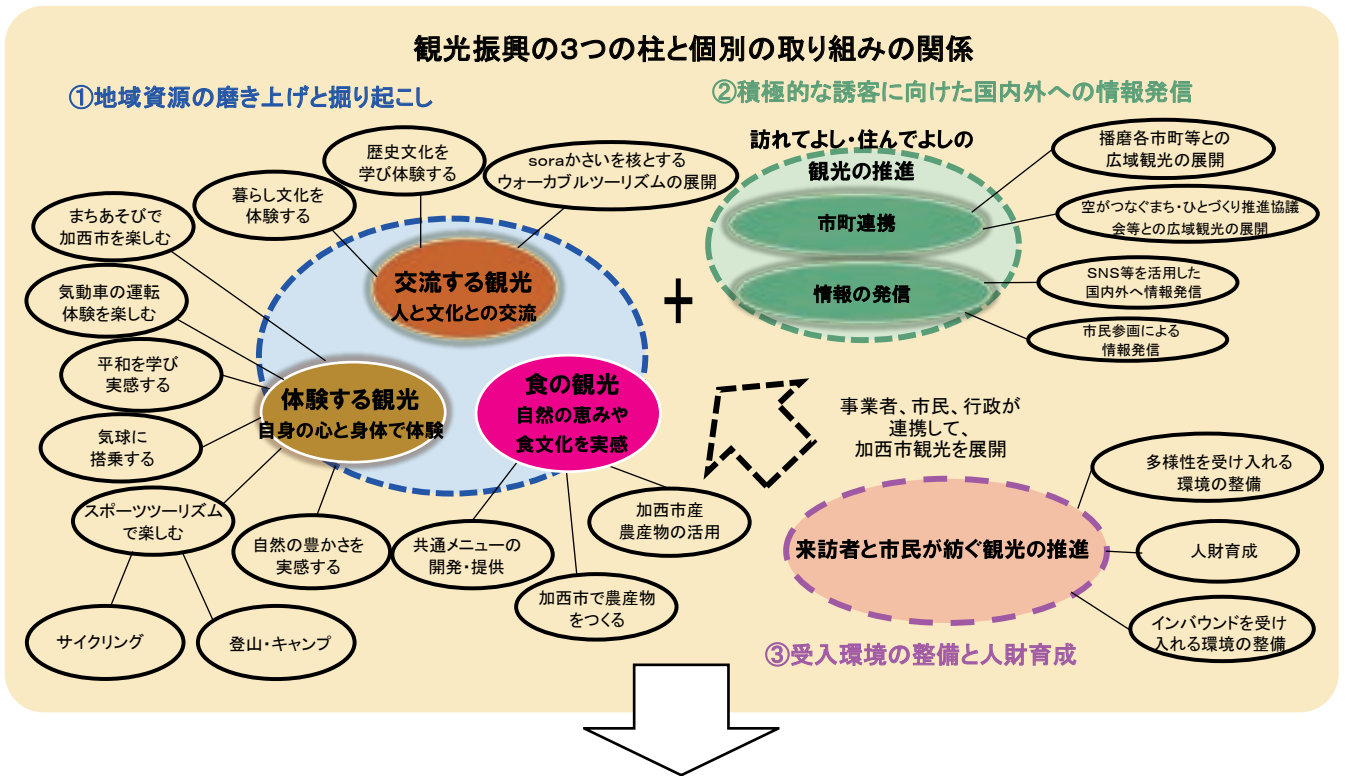
加西市を代表する資源(鶉野飛行場跡(soraかさい)、兵庫県立フラワーセンター、北条鉄道等)を磁力に、加西市のルーツともなる『播磨国風土記』及び玉丘古墳に加えて、気球体験、北条の宿まちなみ散策、サイクリングやポタリング(※1)等を楽しむスポーツツーリズム、ウォーカブルツーリズム(※2)、酒蔵・醤油蔵見学等のコンテンツを磨き、組み合わせる観光の展開を図ります。(※1)ポタリング:自転車散歩 (※2)ウォーカブルツーリズム:居心地が良く楽しく歩く観光

(2) 積極的な誘客に向けた国内外への情報発信

平和学習や花、草木、生きものを通した自然、古墳やため池、まちなみ等を通して紡いできた歴史文化に学び、農産物による食を通した暮らし文化の体験等の地域の魅力を国内外に向け発信していきます。

(3) 受入環境の整備と人財育成

鶉野飛行場跡(soraかさい)、兵庫県立フラワーセンター、北条鉄道等を訪れる人たちを市内の他の施設やエリアに誘客するためのサインや案内板等の整備と観光を持続的に支える人財育成に取り組む展開を図ります。また、ガイドのスキルアップや人数の充実により、おもてなし環境を整えます。



観光の振興により、市内各地域を訪れる観光客の満足度を高め、観光消費総額を拡大することで、加西市全体の経済社会を将来にわたり発展させる『学びと体験・平和を紡ぐまち加西』探訪を創造

方針1 地域資源の磨き上げと掘り起こし

持続的に観光振興を図り、加西市の魅力を高めます

加西市の観光は、全国的に令和2（2020）年1月から感染が拡大した新型コロナウイルス感染症による観光入込客数の大幅な落ち込みが進む中、広い空間が確保できる鶉野飛行場跡のロケーションと、関西圏からの平和教育目的の教育旅行のデスティネーション（※）が広島より近場を選ぶ傾向による旅行環境の変化に加えて、令和4（2022）年4月のsoraかさいのオープンに伴い、拡大傾向にあります。

※デスティネーション：観光目的地

これを、一過性に終わらせることなく維持・拡大していく必要があります。

加西市の観光振興として、鶉野飛行場跡（soraかさい）、兵庫県立フラワーセンター、北条鉄道等を磁力に、加西市のルーツともなる『播磨国風土記』及び玉丘古墳に加えて、気球体験、北条の宿とまちなみ散策、米やとまとの食資源、酒蔵・醤油蔵見学等の資源を磨き、組み合わせた観光コンテンツの開発に取り組みます。

施策

下記施策の内、特に重要度の高いものを重点施策とし、優先順位を上げて取り組みます。

01 | 交流する観光 ～人と文化との交流～

■暮らし文化を体験する

重点施策・体験型旅行商品の造成・提供

・加西市の多彩なものづくりを活かした「産業観光」の推進

■歴史文化を学び体験する

・播磨国風土記をテーマとした芸術祭などの実施
 ・「学びと体験」を体現できる観光コンテンツ開発を支援する仕組みづくり
 ・官民連携による観光ビジネス創出（文化観光や食の魅力開発のワークショップを発展させ観光ビジネスに結び付ける）

重点施策・劇場型周遊観光プログラムを定期的に進行

■soraかさいを核とするウォーカブル観光の展開

重点施策・soraかさいや駅を中心に市内観光エリアへのアクセス性の向上

（仮称）花とsoraの径、（仮称）播磨国風土記の径の整備

⇒法華口駅～鶉野飛行場跡～soraかさい～（仮称）道の駅加西～兵庫県立フラワーセンターを結ぶ南北のウォーカブル軸による周遊観光の形成⇒北条町～北条の宿～玉丘古墳～兵庫県立フラワーセンターを居心地が良く歩きたくなるウォーカブルを軸とする周遊観光の形成

■イベント・ツーリズムへの助成

・市民が鶉野飛行場跡を活用するイベントを支援

02

体験する観光 ～自身の心と身体で体験～

■まちあそびで加西市を楽しむ

- ・「空」や「花」、「平和」、「鉄道」等の地域資源に「食」を組み合わせ、加西市の人が紡いできた地域の魅力を実体験するコンテンツ開発

■平和を学び実感する

- ・旧海軍飛行場にゆかりのある姫路市、加西市、宇佐市、鹿屋市、錦町(※)との連携

※空がつなぐまち・ひとづくり推進協議会(以下 5市町空つな連携)

■気球に搭乗する

重点施策・気球の飛ぶまち加西の推進

■スポーツツーリズムで楽しむ

- ・「グリーンパークトライアスロンin加西」等の継続によりさらなるサイクルツーリズムへの取り組み強化

重点施策・レンタサイクルの利用促進

- ⇒ウォーキングやサイクリングコース等の案内の整備
- ⇒レール&サイクリングに食のコンテンツを加えたポタリングルートの整備など
- ⇒北条鉄道を活用したサイクルトレインの社会実験の実施
- ・ロングライドイベントとカサイチサイクルマップの活用

■自然の豊かさを実感する

- ・(仮称)花とsoraの径、(仮称)播磨国風土記の径の整備(再掲)
- ・ハイキング、登山、キャンプ等 アウトドアイベントの充実

03

食の観光 ～自然の恵みや食文化を実感～

■土産品の開発・提供

- ・喝采みやげの開発と普及

■かさい産農産物の活用

重点施策・市内飲食店との連携による食のコンテンツ開発

- ⇒市内飲食店で加西市のソウルフードとして、炊き込みご飯、かしわ飯まぜご飯等の食事ができる共通メニュー提供開発の支援
- ⇒トマトピューレを活用してナポリタンやとオムライス等の食事ができる共通メニュー提供開発の支援 など

重点施策・食コンテストの開催により提供事業者を拡大

- ・ガストロノミーツーリズム(※)の推進

※ガストロノミーツーリズム:その土地ならではの食や農業等の地域資源を結び、その土地の食や自然文化、伝統等の地域の魅力を一体的に体験する観光のスタイル

■かさいで農産物をつくる

重点施策・計画中の道の駅の活用を見越して、参加体験型農作物づくりプログラムの開発と準備

訪れてよし・住んでよしの観光の推進

加西市の魅力である「花」「自然」「歴史文化」「農産物による食を通じた暮らし文化の体験等」に「平和を紡ぐまち・加西」のまちづくり姿勢を組み合わせ、情報発信を進めます。

施策

下記施策の内、特に重要度の高いものを重点施策とし、優先順位を上げて取り組みます。

01

市町連携と観光マーケティングにおけるBtoBセールスの強化

■播磨各市町等との広域観光の展開

- ・ターゲットとニーズを明確にした国内外に向けた誘客の展開
 - ⇒『北播磨広域定住自立圏』（加西市・加東市・西脇市・多可町）、『北播磨広域観光協議会』（加西市・加東市・西脇市・多可町・三木市・小野市）、『播磨圏域広域観光連携事業』（播磨圏域連携中枢都市圏の取組）や神戸・阪神地域、丹波地域、淡路地域、北摂地域等との広域連携による誘客の展開

■5市町空つな連携等による広域観光の展開

- 重点施策 ・5市町で相互送客が可能な商品造成とファムトリップ(※)の実施
 - ※ファムトリップ: 旅行会社やメディア、ブロッガー等を対象にした現地視察ツアー

■観光マーケティングにおけるBtoBセールス(※)の強化

- 重点施策 ・旅行会社・メディア向けPR(BtoBセールス)の強化により学校の教育旅行誘致を拡大
 - ・教育旅行で訪れた生徒、学生の家族を誘客に結び付け来訪者を拡大
 - ※BtoBセールス: Business to Business の略称で、法人間の商取引を表した売り込み形態

02

情報の発信

■SNS等を活用した国内外へ情報発信

- 重点施策 ・「BE KOBE」的なモニュメント製作を行い「映えスポット」として来訪者にSNSで発信いただき、更なる来訪者増を目指す
 - ⇒ターゲットを明確に「空」や「花」、「平和」、「鉄道」等の地域資源の魅力を情報発信(国内外)
 - ⇒地域の歴史文化、自然、農産物や食等を学び体験し、人生を豊かに彩る観光スタイルの発信を図るパンフレット制作(国内外)
 - ⇒HP、SNS等を活用したリアルタイムな情報発信(国内外)
 - ⇒加西サービスエリアを活用した情報発信
 - ⇒OTAを含む旅行会社への情報提供
 - ※OTA: インターネット上で取引を行う旅行会社(Online Travel Agent)

■市民参画による情報発信

- 重点施策 ・観光研究会の活動を強化して市内外へ加西市の観光魅力を周知
 - ・市民一人ひとりがインフルエンサー(※)となって観光情報を発信できるようにインナープロモーションを強化
 - ※インフルエンサー: インターネット等で世の中に大きな影響を与える人

来訪者と市民が紡ぐ観光の推進

国内外からの来訪者のおもてなし環境の整備と市民がつながる観光まちづくりを推進します。

施策

下記施策の内、特に重要度の高いものを重点施策とし、優先順位を上げて取り組みます。

01 | 受入環境の整備

■多様性を受け入れる環境の整備

- 重点施策** ・観光案内機能の充実、観光サイン・案内板・Wi-Fiの充実・整備
- ⇒観光写真スポット等を結ぶ観光動線の開発
 - ⇒withコロナ・afterコロナに対応しキャッシュレス化等新しい生活様式に沿った受け入れ態勢・構築への支援
 - ⇒ICTを活用したサービス提供や移動環境等への対応検討
 - ⇒観光MaaS(マース)※による周遊性向上の検討
 - ⇒所管観光施設の最適化
 - ⇒歩道などの美化に向けた取り組み。ウォークブル軸形成に結び付く「花の遊歩道」や美しい並木道など歩きたくなる道づくりへの取り組み
 - ⇒ハイキング、登山、キャンプ場等の整備
- ※MaaS:あらゆる公共交通機関をITの活用により結びつけるシステム。

■インバウンドを受け入れる環境の整備

- ・インバウンド対策
 - 「播磨圏域広域観光連携事業」(8市8町の会)による外国人観光客の入込拡大を目指した広域観光の取り組み
 - ⇒兵庫県や近隣自治体と連携し海沿いとは異なる内陸ルートの魅力をアピール
 - ⇒インバウンド向け教育旅行の開発(単なる観光地やテーマパークを訪問するだけでなく、訪れた先の暮らし文化の体験や食文化体験、ボランティアやエコ・ツーリズム等により構成した教育旅行プログラムの開発)
 - ⇒ゴルフツーリズムの推進と、ゴルフプラスαコンテンツ開発

02 | 人財育成

■観光に携わる人財の育成

- 重点施策** ・地域のまちづくり組織や学校との連携により、おもてなし人財や観光まちづくり人財の結集と育成
- ⇒ガイドのスキルアップと新規ガイドの募集と育成
 - ⇒観光まちづくり人財の結集と育成(観光研究会の強化)(再掲)
 - ・地元の学校等との連携によりガイドやインストラクターの育成、食育や農の体験等を組み合わせた商品開発

※人財:「人=財産」と捉え、組織にとって人は財産であるという考え方

第3次加西市観光推進基本計画に記載する施策のうち、特に重要度が高いものを重点施策とし、優先順位を上げて取り組みます。一方で、重点施策に記載する取り組み目的を達成する手段の一例であり、観光産業は変遷が激しいことから、第3次加西市観光推進基本計画に記載する方針・方向性と一致していれば、代替手段も可能とし、弾力的に対応します。

主にコンセプトにある「学びと体験」に結び付くコンテンツ開発を重視します。

方針1 地域資源の磨き上げと掘り起こし

施策1 交流する観光 ～人と文化との交流～

市内には、古墳時代中期の前方後円墳で『播磨国風土記』賀毛郡の条に記載された根日女悲恋伝承の舞台として知られる玉丘古墳があります。加古川が運ぶ肥沃な土地で古代から人々が暮らし、千年以上前に創建された酒見寺などの門前町として栄え、さらに山陽と山陰を結ぶ西国街道の交通の要衝として栄えた北条の宿があり、今日につながっています。そんな環境の中で人々が営んできた農業は米作りから日本酒造り、ブランドとまとやアスパラ栽培等に結び付いています。また、加古川西岸の平坦な地形を活かし第2次世界大戦末期に鶉野飛行場が整備され、今日も飛行場跡に整備されたsoraかさいを拠点にした平和教育プログラムの参加や気球の搭乗体験等で多くの人たちが訪れています。最近では、加古川西岸のなだらかな地形が好まれスポーツツーリズムで来訪する人も多くなっています。

このような多様な地域資源を磨き上げて「加西の魅力」を訴求していくため、Webアンケート等によるマーケティングの視点を加え地型観光の検討を行い、域内消費額の向上に取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、ガイド組織、民間事業者、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
体験型旅行商品の造成・提供	コンテンツ開発 実施計画策定		商品開発・販売 改善点の抽出・リブランニング		
劇場型周遊観光プログラムを定期的に催行	定期開催	『鶉野北条物語』 定期開催 『玉丘根日女物語』 制作	『鶉野北条物語』『玉丘根 日女物語』定期開催	改善点の抽出・リブランニング	
北条鉄道の乗降客数の拡大			イベント等を駆使して乗降客数を拡大		
兵庫県立フラワーセンターの入園者数の拡大			イベント等を駆使して入園者数を拡大		
soraかさいや駅を中心に市内観光エリアへのアクセス性の向上			(仮称)花とsoraの径、(仮称)播磨国風土記の径の整備		

※ウォーカブル軸の形成に合わせて、遊歩道整備(歩きやすい小径)整備とフラワーベルト等のハード整備に取り組みます。

施策2 体験する観光 ～自身の心と身体で体験～

鶉野飛行場跡で取り組んでいる気球係留イベントやハッピーバルーンクリスマス等の開催により「気球の飛ぶまち加西」の都市イメージが定着しつつあります。

空に浮かぶ気球から加西市のまちの広がりを体感し、参加者自身の心と身体で平和を実感し、自然の豊かさを体験するプログラムの充実を進めます。

来訪者が「加西市の魅力」に触れ、ファンになってもらうためには、加西市の顔とも言える北条の宿、玉丘古墳、兵庫県立フラワーセンター、鶉野飛行場跡(soraかさい)、北条鉄道の駅舎等を回遊する施策が欠かせません。このため、サイクリングコース等の整備を進め、市内でポタリングする周遊ルートを提案するサイクルツーリズムの推進に取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、市民、民間事業者、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
気球の飛ぶまち加西の 推進	気球係留イベント再考		アウトソーシングによるイベントの定期開催		
	ハッピーバルーン		ハッピーバルーンクリスマスの継続開催		
	クリスマスの継続開催 (目標参加数 9,000人)	(目標参加数 9,000人)	(目標参加数 9,500人)	(目標参加数 9,500人)	(目標参加数 10,000人)
サイクリングコース等 の案内の整備や市内 でのポタリングの提案 によるサイクルツーリ ズムの促進		兵庫県自転車活用推進計画に基づき(仮称)花とsoraの径、(仮称)播磨国風土記の径の整備			
			サービス提供施設やサイクル情報提供等に対応する施設整備		

※サイクルツーリズムの展開に合わせて、サイクリスト達の休憩スペースや飲み水・空気入れのサービス提供施設やサイクル情報提供等に対応する施設整備に取り組みます。

施策3 食の観光 ～自然の恵みや食文化を実感～

観光は極めてすそ野が広い事業領域であり、食材を育てる第一次産業、調味料や調理器具、器等を製造する第二次産業、食事の提供や販賣創出のイベントの企画、開催等の第三次産業と、地域経済を支える総合的な産業に関係します。

「学びと体験」に「食」を付加し、加西市の魅力を高めるワークショップの開催により取り組んだ「鶏」を用い「炊く・混ぜる」の調理法による「(仮称)加西めし」やトマトピューレを用いた「(仮称)加西オムライス」等をご当地メニューとして販売することに取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、市民、民間事業者、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
市内の飲食店との連携 による食のコンテンツ 開発	名物食の開発・制作			継続販売	
		5市町空つな連携 可能なメニューを開発		5市町空つな連携メニューの活性化と販路	
食コンテストの開催に より提供事業者を拡大	食コンテスト開催等 による周知拡大	5市町連携コンテスト開催		食コンテストの継続実施による参加店舗の拡大	
				継続開催による販路拡大	
計画中の道の駅を活用した参 加体験型農作物づくりプロ グラム開発と提供		農政課と連携して計画中の道の駅を活用した参加体験型農作物づくりプログラム開発と提供			

施策 1 市町連携と観光マーケティングにおけるBtoBセールスの強化

加西市は、旧海軍飛行場にゆかりのある姫路市、宇佐市、鹿屋市、錦町とそれぞれの自治体の地域住民、観光協会等で構成する5市町空つな連携に加わり、地域振興や交流人口の拡大に取り組んでいます。

この活動の一つとして、戦争遺跡をまわり、地域の歴史文化を学び、農村体験や漁村体験を楽しむ平和ツーリズム(ピースツーリズム、グリーンツーリズム、ブルーツーリズム)※を推進しています。それぞれの市町が切磋琢磨して観光振興に取り組んでいますが、同じ思いを持った地域が一つとなって観光魅力を訴求し誘客に取り組むことも大切なため、5市町で相互送客が可能な商品造成を進めます。

※ピースツーリズム:来訪者と市民が平和への思いを共有する観光スタイル
 グリーンツーリズム:農山村で休暇を過ごしながら、農業体験をしたり、自然や人々との交流を楽しむ観光スタイル
 ブルーツーリズム:島や沿岸部の漁村などに滞在し、現地の体験を通じて心身をリフレッシュする観光スタイル

コロナ禍による行動変容から教育旅行も近場が選ばれる傾向にありsoraかさいを訪れる学校が令和3(2021)年度の約50校から令和4(2022)年度は100校を超える規模に拡大しています。この大きな要因は、コロナ禍による行動変容ですが、この間に取り組んだ旅行会社やメディアへのPR展開も功を奏しています。

このため、旅行会社・メディア向けPR(BtoBセールス)を強化し、教育旅行で加西市を訪れる学生・生徒のさらなる拡大に取り組みます。また教育旅行で訪れた生徒・学生の家族の誘客による来訪者の拡大にも取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、民間事業者、5市町空つな連携、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
5市町で相互送客が可能な商品造成とファムトリップの実施		5市町空つな連携で相互送客が可能な商品のファムトリップの実施 姫路との相互送客の仕組みの構築実施	5市町連携プロモーション用の旅行会社・メディア向けのセールス並びにファムトリップを実施		
旅行会社・メディア向けPR(BtoBセールス)の強化により小中学校の教育旅行誘致を拡大	BtoBセールスとファムトリップの実施	BtoBセールスとファムトリップの継続実施		BtoBセールスとファムトリップの継続実施	

施策 2 情報の発信

『学びと体験・平和を紡ぐまち加西』探訪を浸透させていくため、「BE KOBE」的なモニュメント制作を行い「映えスポット」として来訪者を通じ、SNS等を活用して発信力を高めます。制作においては、プロの力を借りつつ、広く市民の参加を募り、市民自らが加西市の魅力を発信していくきっかけを創造します。

また、観光情報の発信で一番浸透しているのはSNSを含めて、信頼する人を通しての「口コミ」という状況を踏まえ、市民や事業者が参画する観光研究会の活動を強化して、ここに参画するメンバーから市内外へ情報を発信し、加西市の観光魅力の周知に取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、市民、民間事業者、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
「BE KOBE」的なモニュメント制作を行い「映えスポット」として来訪者にSNSで発信	「BE KOBE」的なモニュメントの製作			メディア等へのプロモーションにより来訪者拡大の取り組み	
観光研究会の活動を強化して市内外へ加西市の観光魅力を周知	市内外のイベント参加などで市内観光地の周知拡大		市内外のイベント参加による市内観光地の周知活動の継続 5市町連携による周知活動の展開		

方針3 受入環境の整備と人財育成

施策1 受入環境の整備

加西市を訪れる人たちに可能な限りストレスフリーな移動環境を提供するため観光案内機能の充実や観光サイン・案内板・Wi-Fiの充実・整備、多言語による案内等に取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
観光案内機能の充実、 観光サイン・案内板・Wi-Fiの充実・整備		観光案内機能及び	観光サイン・案内板・Wi-Fi	等の順次充実・整備	→
インバウンド向け 受入環境の整備	(公社)ひょうご	観光本部、北播磨広域定住	自立圏、北播磨広域観光協議会、播磨圏域広域観光連携事業、	5市町空つな連携等との広域連携による継続的な取り組み	→
グリーンスローモビリティの導入	1台導入	→			2台導入
再エネ街路灯の整備				令和8年度までに整備整備	→
RVパークの整備				令和8年度までに整備整備	→

施策2 人財育成

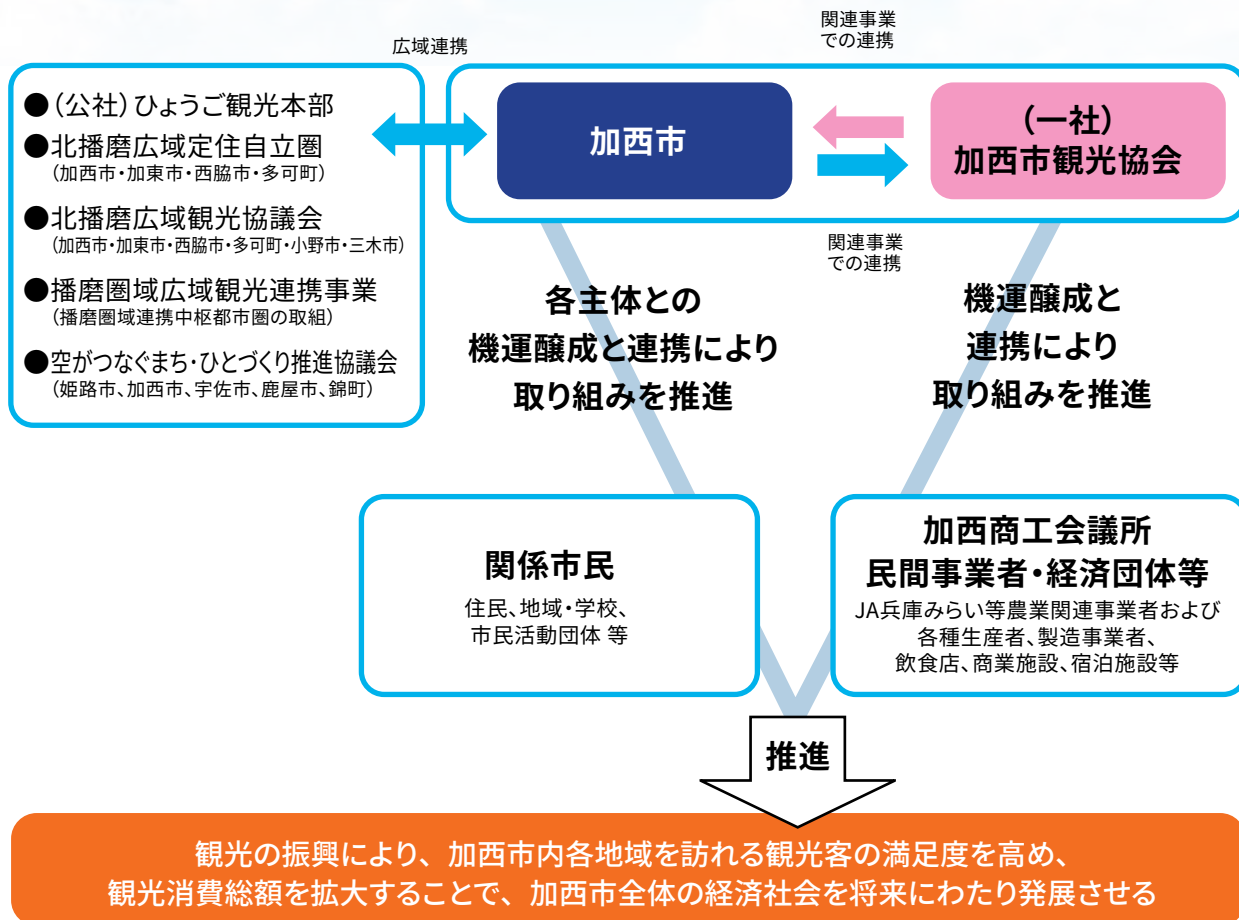
観光振興に資する地域のまちづくり組織や学校の活動を支援します。また、観光来訪者に対し、より専門的な知識を有するおもてなし人財や観光まちづくり人財の結集と育成、直接、来訪者と接するガイドのスキルアップと人数の拡大に取り組み、満足度向上によるリピーターの確保に取り組みます。

実施主体 (一社)加西市観光協会、市

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)
地域のまちづくり組織や 学校との連携により、おもてなし人財や観光まちづくり人財の結集		既存ガイドへの定期的な知識向上、新ガイドの募集育成			→

(1) 計画の推進体制

計画の推進にあたっては、第3次加西市観光推進基本計画策定委員会が中心となり、市内事業者や関係者と進捗に関する意見交換や合意形成の場を設け、市と共に(一社)加西市観光協会と関係者が一丸となって観光の産業を強化推進すべく、経済活性化に取り組みます。また幅広い知見をもって計画を推進していくと共に、より広い波及を目指し、公益社団法人ひょうご観光本部や北播磨広域定住自立圏、北播磨広域観光協議会、播磨圏域広域観光連携事業、5市町空つな連携等とも連携していきます。



(2) 計画の進捗管理

第3次加西市観光推進基本計画を効果的に推進し、目標を達成するためには、常に進捗状況を把握し、評価を行うことによる見直しや改善が必要になります。本計画の進捗状況及び評価については、PDCAサイクル(※)を徹底して実施し、加西市の実情や観光市場の動向に即しながら目標達成に向けて管理していきます。

※PDCAサイクル: Plan → Do → Check → Act の4段階を繰り返すことで業務を継続的に改善すること。

また、PDCAサイクルの運用において、(一社)加西市観光協会や民間団体と連携して実施していく中で、取り組みの進捗状況や達成目標(KGI)の達成状況を随時確認し、基本方針や主要施策、KGIなどについて計画の見直しを協議していきます。

市民・観光関係者・行政のそれぞれが本計画についてよく理解し、目標を共有していくことが計画の実効性を高めることとなります。加西市の賑わい創出・経済活性化・交流人口拡大のためにも本計画を着実に実行し、時代に即しながらも地に足の着いた観光地域づくりを進めます。

資料編

資料1 ワークショップ概要

1-1. 加西市の魅力創造ワークショップ

ワークショップの経緯

【ファシリテーター】

吉兼秀夫氏



- ・京都外国語大学特任教授
- ・第1次、第2次加西市観光推進基本計画策定委員会委員長
- ・第2次加西市観光推進基本計画推進委員会 委員長
- ・奈良県明日香村、鳥取県若桜町、大分県竹田市等において着地型観光を指導

玉岡かおる氏



- ・作家 大阪芸術大学教授
- ・神戸文学賞受賞、第25回織田作之助賞受賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞、大阪サクヤヒメ表彰特別賞をそれぞれ受賞、2021年文部大臣表彰(地域文化振興)
- ・2022年『帆神 北前船を馳せた男・工楽松右衛門』で新田次郎文学賞受賞

【開催状況】

- | | | | |
|------|----------|-----------|---------|
| ◆第1回 | 2月20日(日) | 文化観光資源調査 | 概要、次頁参照 |
| ◆第2回 | 5月27日(金) | 文化観光資源検討会 | 概要、次頁参照 |
| ◆第3回 | 8月31日(水) | 文化観光資源検討会 | 概要、次頁参照 |

第1回 文化観光資源調査(概要)



【鶉野飛行場跡】

- 昔のイメージしかなかったのに、こんなに開けて明るくなっていることにとても驚きました。
 - 滑走路なども上手く活用すればいいものができるのではないのでしょうか？
 - 「紫電」「紫電改」模型などもしっかり展示されていて、臨場感のある2階での展示など本物らしさがしっかり表現されることもすばらしいです。
- また、巨大防空壕内に「姫路海軍航空隊特別攻撃隊「白鷺隊」に所属した隊員たちが残した遺書を映像」について、素人が作った映像ではなく、しっかりプロが制作しているあたりも重要なので、これはいろんな人に見てもらえる内容だと思います。(よくある素人レベル映像や、昔制作した映像などはせっかくの内容を半減させてしまう)センスよく伝えることこそ重要となると思います。
- 平和教育の中で、避けては通れない内容になりますが、それを暗くならないように伝えてゆくことが大切だと思います。



【玉丘古墳群】

- 一般の人にとって古墳のイメージがつかないため、ドローンなど全景を見て説明が大切です。セミナー冒頭で見せてお話しするのがベストだと思います。
- 百舌古市古墳のように大規模ではないが、古墳は女性にも人気であるため、そのあたりを活かした見せ方ができるのではないだろうかと思っています。受け手にとっては新しい印象を与えます。



【北条鉄道】

- 北条線を残し、今も活用できていることは、小野市や周辺地域でも見習ってほしいくらいです。またパン屋さんがあるなど観光としても活用しやすいところがいいと思います。
- 鉄道ファンは全国にもたくさんいるので、しっかりこの鉄道を活かしていくと良いと思います。他が出来なかった分、余計に期待しています。
- 秋田県能代市 東能代駅から青森県南津軽郡田舎館村 川部駅を結ぶJR東日本五能線を走っていたキハ40形車両について、自分を含めて年齢性別問わず鉄道好きは多いので、このあたりも活用して盛り上げもっと上手く活用できると思います。



【旬彩館】

- その地域ならではのものを購入できるのはとても喜ばれるし、私自身美味しいものがあれば、わざわざ買いに行くと思います。とまと、イチゴなど旬を感じられるし魅力的です。ただ知られていないのが残念です。醤油など知られざるものももう少しPRする方がいいと思います。

【土一七日屋台農家レストラン】

- まずこんな山奥にレストランがあることも知らなかったし、どれも丁寧な味付けやこだわりが感じられました。加西市の食材を食べることができ、ジビエをはじめ豊富な食材を知ることが出来ました。
- やはり観光にとって食はとても重要なので受入とのバランスはありますが、うまくPRしてゆくのが必要だと思います。もっといろんなものが買いたいというニーズもあると思います。



【自然環境について】

- 丹波篠山=里山の印象がありますが、加西市を訪問して山があり自然豊かであることに驚きました。また、白鳥の飛来地である池もあり、ここまで自然豊かだったことは知りませんでした。こういった物語もしっかり伝えていった方がいいと思います。

第2回 文化観光資源検討会(概要)

地域資源を活用した文化観光の方向性について

● 鶉野飛行場跡について

- ・soraかさい 施設レベル、ストーリーもわかりやすく、戦闘機「紫電改」と「九七式艦上攻撃機」の実物大模型も見応えがあります。
- ・お土産店はまだ加西市らしいものを並べるのがベストだと思います。
- ・広い空を活かすと良いと思います。
- ・雨 但馬・丹波地域で言われる雨の表現「ぴりぴり降ってくる」。
- ・蝶々がわかりやすいですが、残念ながら知覧のほたるのインパクトに負けると思います。
- ・キッチンカーの出展、フラワーアートインフォロータ

● 平和のストーリーについて

- ・若い訓練生と地域の人との交流も何かしらかかり資料がある方がいいと思います。
- ・知覧がすでに有名なので、この地ならではのストーリーを考える必要があると思います。
- ・訓練生が銭湯へ行くときに通るお寺「西岸寺」の上皇旗(明治天皇)を掲げるお寺を通るときに必ず敬礼をするなどこの地域ならではの物語などが重要になると思います。
※高倉健さん主演映画「ほたる」で、第二次世界大戦末期に知覧特攻基地から出撃した若者が、ホテルになって戻って来たようなシーン(知覧焼酎でもほたる販売されている。)
- ・モチーフは蝶などではなく、加西市オリジナルを考えると市花サルビアなどモチーフにするのはどうでしょうか？
- ・単に戦争はいけないと嫌戦のムードを作るのではなく、どうしたら戦争を防げるのかを考えるきっかけにしたいと思っています。それには、鶉野から飛び立った人たちが後世の私たちに残してくれたものは何なのか、それをかみしめる場にならないといけないと思います。ただの悲劇として伝えるだけなら、もう聞き飽きてリアリティーがないと思うのでは不会でしょうか。

● 平和教育について

- ・魅せ方が重要。知名度のある知覧などの模倣になるため、加西市らしさが必要だと思います。

● 鶉野飛行場跡でのオリジナル体験 PRになるようなもの

- ・凧あげ、空にかかわる未来子ども、平和につなげる。気球、ランタン(制約、安全面のハードル)
- ・イベント日程:紫電改を最後に飛び立った日(※8月6日?)63名の若者への鎮魂 63個の凧をあげる。
※最後の紫電改が飛び立った日?

● 滑走路の活用

- ・1, 200mの滑走路 風を体感イベント 特別に車で走れる。フードイベントなど開催など

● 北条の宿

- ・当時の歴史を物語る施設が少ないため、観光としては物足りないと思います。
- ・水田さんのようなガイドがいればまだ良いが、まちなみになって分かりずらいため、単純にまち歩きとしては弱いと思います。

● 食との連携

- ・ツアーには食がつきものです。
- ・富久錦 酒蔵ランチ 距離があるけれど鶉野とバス運行やツアーするとういと思っています。

● 玉丘古墳(入れる古墳)

- ・当時の玉を敷き詰める原点回帰などいいのではないのでしょうか？
- ・整備 玉丘 玉を敷き詰める
- ・原点回帰プロジェクト、市民でチームをつくって行うのも良いと思います。
- ・全国的に議論になるのもベストだと思います。
- ・木を伐採するのは防災にもなると思います。

● 北条鉄道

- ・豊かな環境と書きが大切。ルールをつくる必要があると思います。
- ・萩原氏 古墳の整備担当 実際 古墳再生、プロジェクトを行政内でも確認する必要があると思います。
- ・子どもの映像 単純に綺麗な平和教育ではなく、真の通ったものが必要だと思います。
- ・キッチンカーが集まる 淡路島ハンバーガー1, 700円
- ・出店のようなお店ではなく、地元産を使ったり、有名なキッチンカー 出店集客

● まちなみ(吉兼先生)

- ・学生に地図を書いてもらう。自分の思い出を書いてもらうのはどうでしょうか。
- ・主観的エピソード 飛行場の広さ、空の大きさを感ずります。
- ・アイデアを使ってフラワー&ピース

観光資源を活用した集客・誘客の取組みアイデア

市民向けイベント

● 入れる古墳「玉丘古墳」再生プロジェクト

- ・当時の古墳に再生するか? 緑のある今の古墳をクリーンアップ? など
- ・市民向けに話し合いながら、古墳再生プロジェクトとして意見を集めながら、再生させてゆく。
- ・木を伐採した場合、古墳守りなど寄付と引き換えにプレゼントなど
- ・クリーンアップ運動はいずれにしても可能である。

一般向けイベント

● 加西市から平和を「飛・凧・夢」イベント

- ・63機の凧揚げ 事前に色塗りや、夢を書いた凧を揚げる(周辺小中学生)
- ・滑走路を走り、風を体感するイベント
- ・周辺でキッチンカーイベント

観光ツアー&企画

- 鶉野見学&酒蔵ツアー(バスで連携)
- 北条鉄道散策&キッチンカー大集合
- 鶉野&北条の宿 ルートイン北条~鶉野 スタンプラリーなど
- 高校性ガイドと行く平和を考えるまち歩き(北条高校が実際ガイドをしているので、これを大きくイベントとして開催)
- 鶉野サイクルツアー(新しくサイクリングツアー受入をする動きあり)

第3回 文化観光資源検討会(概要)

地域資源を活用した文化観光の方向性について

●加西市資源のブランド化

- ・まず知ってもらうためには、ブランド化が必要だと思います。
- ・すでにブランド化している鶺野飛行場跡や兵庫県立フラワーセンターはもちろん玉丘古墳なども活用できると思います。
- ・「加西市に行こう」と言えば、みんながイメージとして湧くようにブランド化をする必要があると思います。

●食との連携

- ・食のブランド化が必要だと思います。

●広い滑走路の活用

- ・広い滑走路をサイクリングやキックボード、空飛ぶ自動車の練習場などに活用すると良いと思います。
- ・平和に関わるイベント(花のショー)などの開催すると良いと思います。
- ・修学旅行や遠足に来た時に、飛行場でお弁当をたべてもらえたら良いと思います。
- ・1,200mの滑走路を体感できるようなプログラムができたら良いと思います。

●北条鉄道

- ・リピーターが多いため、シーズンごとにイベントを開催したり、グッズを3~4カ月ごとに変える取り組みをしています。
- ・PR不足のため、リピーターを確保できる方法を第3次の計画に盛り込んでほしいです。
- ・運用や整備のこと、歴史などを伝えてもらうのも面白いと思います。

●観光の方向性

- ・加西市周辺地域(姫路など)との連携が必要だと思います。
- ・加西市内の観光が鶺野飛行場跡だけではなく、周りの観光資源を活用し、1泊してもらえるように取り組んでいく必要があると思います。
- ・鶺野飛行場跡の活用方法については、市民からの様々な意見があるので、平和のイメージ、そしてある程度明るいイメージと、どうマッチングさせていくかが最大の課題です。
- ・牽納型観光(受け身的ではなく、自分たちがその資源やコンテンツをつくる主体になることでレポートにつながる)来た人が一番の案内人です。

●情報発信について

- ・修学旅行生に動画を撮ってもらい、SNSで発信してもらおうと良いのではないかと思います。
- ・子供が作った動画の方がよりリアルで面白くなると思います。

●お金を使ってもらいしかけづくり

- ・一般に来られる方を対象にお金を使ってもらえるような仕掛けづくりが必要だと思います。
- ・訪問時間をお昼の時間帯にして、お弁当購入につなげられたら良いと思います。

●他の地域との違い

- ・この地で多くの方が亡くなったのではなく、訓練をして特攻で亡くなったところがキーです。
- ・80年前のものがそのまま残っています。
- ・今現在の技術を駆使した映像を見ていただくことで、イメージーションを深めて考えることができると思います。

●教育旅行について

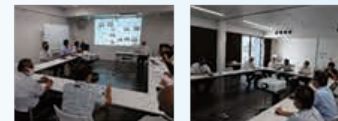
- ・高校で今年から「総合的な探究の時間」が正規科目になったので、観光の資源を授業の素材にしながら進めていくのが良いと思っており、教育旅行の誘致につながるのではないかと思います。

●修学旅行生をリピーターにするためにできること

- ・自宅で加西市のことを話してもらう時、うまく伝えられるようなツールが必要だと思います。
- ・約8,000人の生徒たちの家族を取り込めたら良いと思います。
- ・コロナ後も加西市に来てもらえるように、先生たちに他では見られない特色をPRしておく必要があると思います。

●事業者間の連携

- ・鶺野飛行場跡と兵庫県立フラワーセンターを具体的に線で結び付けられたら良いと思います。
- ・法華口駅からの遊歩道を兵庫県立フラワーセンターまでつなげる、ゴーカートなど乗り物であれば高齢者や障がい者にはそれに乗ってもらいます。両側を全部お花にして季節の花が咲いているような景観づくりも良いと思います。



観光資源を活用した集客・誘客の取組みアイデア

修学旅行生に向けて

●平和を実感するまちめぐり

- ・平和を願う植樹→未来の観光客を作るための仕掛け
- ・戦争を学び平和を実感する場所+αをつくる(食育・山登りなど)
- ・修学旅行生に動画を撮影してもらい、SNSで発信してもらう
- ・現代の技術を駆使した映像を見てもらい、イメージーションを深めて探求に繋げてもらう

施設整備や人材育成について

- 兵庫県立フラワーセンターまでつなげる遊歩道の両側に花を植えてフラワーロードにする
- サイクルガイドの養成
(自転車で案内することにより、行動範囲も広がり、身体の五感を使って体感することができる)

ワークショップの経緯

【ファシリテーター】



広里貴子氏

《経歴》

・大阪あべの辻調理師専門学校の日本料理講師を経て
(有)貴重を設立。関西の食材・食文化の魅力をあらゆる形で皆様に伝える活動に従事
・2013年、NHK連続テレビ小説で料理指導を担当
以降、NHK大阪放送局制作の朝ドラを9回連続して担当。現在、商品開発、料理講習、
メディアへの技術提供等幅広く活躍中。

【開催状況】

- ◆第1回 1月31日(月) 食の資源調査 概要、次頁参照
- ◆第2回 6月13日(月) 食の資源調査を踏まえた「加西市の食展開の提案」(実食を踏まえた意見交換) 概要、次頁参照
- ◆第3回 8月31日(水) ワークショップ参加者からの「加西市の食展開の提案」 概要、次頁参照

第1回 食の資源調査(概要)

加西市の多彩な食材や人材

●加西市の農産物

- 米づくり(うるち米)が中心 山田錦の産地
- ぶどう 昭和50年ころ 生産団地で栽培が始まった。ゴールデンベリー-A
- とまと 戦後に栽培が始まった ハウス栽培が中心
- いちご、アスパラガス(関西で主産地とするところが少ない)



●生産者との懇談

土井氏(愛菜館)

- 青野ヶ原台地は赤土で大根、ジャガイモ等の根菜類の栽培に適しています。
- 加西市で栽培した芋、山田錦、焼酎麹を鹿児島に送り、芋焼酎を製造し販売しています。



森川氏(とまと果樹)

- 特産費をつかっていきたいと思います。
- 生産者個人のストーリー性が重要で、裏にあるストーリーへの食いつきが良いと思います。
- 大玉とまとの生産さんは工夫が必要で、毎年、同じ味のものをつくるのは難しいです。
- 最近はとまとからブドウに興味が出てきています。ブドウは6つの生産団地で作っています。
- 生産者にとっては採れたてを食べてもらうのが一番だと思います。

有吉氏(ゆり農園)

- お米、野菜、アスパラガ等を栽培しています。
- 20人くらいでアスパラ部会を立ち上げ栽培に取り組んでいます。新芽が甘みがより一番おいしいと思います。28cmくらいの高さで切るが、多い時には1日3回くらい収穫することがあります。
- 春はとまと、夏はアスパラ、フルーツ、秋・冬は根菜と旬のものを出荷しています。スーパーで旬に関係なく販売しているので大人も子供の季節感が薄れてきているように思います。農産物直売場では旬を感じ取れると思います。沿岸部の農家は、耕作したお米は市場に出荷し、自身が食べるお米は内陸部のものをあてにしています。山田錦は、酒米として酒造りに用いられている以外に、スイーツ、カレーなどの加工品に使われ、日常米でも食べられています。

●まぜごはん

- 蓬萊氏により「まぜごはん」を紹介いただき実食しました。



●食の提供者

- 下江氏(地域おこし協力隊→市議員 島根県出身で8年目)
- 西脇、加東、姫路、神戸で食品開発を学びました。
- ソーシャルキッチンカフェ(レンタルカフェ)の運営をしています。
- 加西市の若い人が思うおみやげ物(小分けできる、賞味期限が短い、加西市の食材の利用)は現状ではありません。
- 加工物で使いたいモノはとまと、ブドウです。
- 市内で食品加工ができる製造者は2社程度にとどまっています。
- 開発した加工食品を販売する場所をつくる必要がある。soraかさいでの販売所を期待しています。
- 高校生がつくるドラ焼き、いちごやまとの大福、米粉を使ったグルテンフリーのクッキー
- コロナ禍で自身の人生を見直す人が多く、「食」に関する商売への関心が高まっています。



深田氏(シャルム)

- 2つのレストランとカフェを営んでいるので、できるだけ地元産の食材を用いて提供しています。
- お客さんは市外からの多いです。
- 最初、30歳代を主なターゲットに始めましたが、中高年層が増え、SNSを通じて若い人が増えてきています。
- 昼間はレストラン、夜は焼き鳥屋と二毛作経営をしています。
- 市外の人の来店が増えることで地域活性化に役立ってほしいと思っています。
- 播磨の小さな台所活性化委員会のイベントをきっかけに、高校とつながりができ、播磨農業高校と連携したコラボメニューを提供しています。
- 旅で訪れた人に美味しいものを提供できたらと思っています。
- 旬の食材は一時に集中することになり、日持ちする加工品(例えばピクルス)として旬以外に提供するようになりたいです。
- いちごやイチジク、メロンなどのフルーツをジュースやスイーツで年間を通じて提供していきたいです。映えているメニューをつくりたいと思います。



地域食材のリサーチ、第1回ワークショップからの方向性

①まぜご飯について

加西市内においても、味や、具材など様々なものがあることが認識できました。さらに、味の付いた具を混ぜる地域、具材を混ぜて炊く地域と、調理法においても違いがあるなど、様々な具材や味付け、調理法は、この料理の特徴となっています。ご飯に「数種類の具材が入った味付きのご飯」であることは共通していることから、「加西まぜめし(飯)」のような総称をつけ、使用する食材などに関するいくつかのルールを設け、様々な加西市のまぜめしを巡る楽しみに繋げてほしいかと思っています。

②「山田錦」を使ったスイーツや加工品などの開発
酒米として全国的に有名な「山田錦」を用いたスイーツや加工品は、お土産としても手に取ってもらいやすいです。第1回ワークショップで試食したチーズケーキのように、山田錦+酒や、米粒が大きいという特徴を感じられる。例えばポン菓子などのように加西市が山田錦の産地として認識いただける加工品の開発に取り組むのはどうでしょうか。ただし、現状、山田錦が確保しづらい状況にあるということから、山田錦生産者の方への働き掛けによる理解醸成が必要となります。

③地域食材のシーズナリティの把握と、地域の生産者と飲食業者とのネットワークづくり
加西市の食材の「旬」を把握し、四季折々の食を楽しみに来訪いただく仕掛けづくりも必要です。第1回ワークショップでは加西とまとのシーズンは終わりがけでしたが、アスパラガスも含め生産地ならではの新鮮さを十分に実感できました。これからの季節のフルーツや、冬の大根など、それぞれの季節で楽しめる食を来訪者に提供できるよう検討するため、地域食材の旬カレンダーなどを作成し、地域の食の提供者が、地域食材をしっかりと活用できるよう、生産者とのルート作りも検討する必要があります。

④誰に、どのように提供するか

第1回ワークショップでは、加西市に平和学習に訪れる教育旅行生をターゲット像とし、外でも食べることができる料理を提案し試食を行いました。今、来訪している教育旅行生の昼食は少なく地元のものではないため、せめて昼食で加西市のものを食べてもらうようにする必要はないかという意見もあり、現段階で既に来訪している教育旅行生への食の提供を実現させることは急務であり、早期の販売に繋がる可能性が高いと考えられるため、第2回ワークショップにおいても、ターゲットをそこに置いて、参加者からの意見を抽出したいです。

第2回 食の資源調査を踏まえた「加西市の食展開の提案」(実食を踏まえた意見交換)(概要)



献立

- 加西鶏飯
- 鶏スープ
- 加西とまととアスパラガスの発酵ピリ辛サラダ
- 山田錦と酒粕のレアチーズケーキ

●お店での提供方法

○お店で提供するときに、炊き込みご飯がいい人や白米で食べたい人、アレルギーのある人もいるので、それぞれに対応した提供方法を用意することで、食べたい分だけ仕込むこともできます。

●混ぜご飯の具の活用

○たまご焼きやオムレツ、焼きうどんや混ぜうどん、冷やしうどんの上にぶっ掛けていただいて混ぜることもできます。

あん掛け豆腐など、シンプルな食材にも混ぜることも、具の応用編として使えます。

●試食献立に託したメッセージ

○献立に4つのメッセージ(ストーリー性、地元でしか味わえない、味変、パッケージの選び方)を入れています。

食べ物にはストーリー性を入れると魅力が増し、味だけではなく+αのメッセージも伝えることができます。

●平和のストーリー性

○鶉野飛行場跡は日本では数少ない戦争中にパイロットを養成するために出来上がった跡地です。どのような思いで飛行機に乗って飛び立ったのかということを伝えていけば、平和のまち鶉野、平和のまち加西市というふうに話を進めていけるのではないかと思います。

●加西市の食材

○加西市は酒米の王様「山田錦」の一大産地ですから、そこをうまく利用したら面白い商品ができるのではないかと思います。

○加西とまとはみずみずしい。大阪にも流通しているが流通に乗ってきている分、こんなにみずみずしくありません。そのまま楽しめる料理やお菓子にするのも1つの手ではないかと思います。

○ハリマ王にんにくも有名、それからキクラゲやアスパラなど、加西市には他の地域にはない魅力的な食材が多いです。

●地元食材の確保について

○地産地消で食材をうまく活用していくために、地元での流通のルート確保は非常に重要だと思います。できないからあきらめるのではなく、できない理由を把握し、そこをみんなで補っていくことが大切だと思います。

●味変について

○一つで二度おいしいお得感を生み出すために味変という手法を使いました。このままでも鶏飯は普通に召し上がっていただけるが、ピリ辛サラダを混ぜることによって少しお得感、2つの料理を食べたような感覚になれます。

●パッケージについて

○まず持っていてかわいく扱いやすいものが最近の主流です。

○パッケージは歩く広告にもなるので、写真を撮っていただいたらSNSにも発信してもらえそうです。

○気球の町なので、気球のバスケットのイメージで真っ白な箱のままにしました。このようなものもメッセージに込めていくと良いと思います。

第3回 ワークショップ参加者からの「加西市の食展開の提案」

第3回ワークショップで出された主な意見

●まぜご飯について

- まぜご飯については、それぞれの家庭のやり方や味があり、その特徴を味わうように整理すると良いと思います。
- またレトルトにできたら、お土産にもなると思います。
- 混ぜご飯のように「混ぜる」というアクションがあり、一手間みんなで共有するものが今のトレンドです。
- ストーリーも盛り込み、味や食材も地元のものを取り入れるようにすると良いと思います。

●加西とまとについて

- とまとはシーズンが決まっているものなので、ソースにして年中提供できるようにできたら良いと思います。
- 加西とまとでトマトピューレをつくり、市内の飲食店でナポリタンやオムライスにして提供してもらえたら良いと思います。
提供方法はベースとなるトマトピューレをつくり、後は各店舗でアレンジしてもらいます。

●「山田錦」について

- 加西市のお米には、山田錦の他に野条穂がありましたが、現在はつくられていません。
- 山田錦をお酒だけでなく、チーズケーキやポン菓子などに加工するののも一つの提案。その際は食べたときに山田錦だとわかるように、粒を残したりする工夫をすると良いと思います。

●今回のデザート「あんみつ」について

- あんみつは和風で年配の人にも受け入れてもらいやすく、見た目では若い子にも気に入ってもらえる。さらにアイスを乗せたら良いと思いました。
- ソフトクリームで雲をイメージして、ゼリーの中にもちよっとソフトクリームを使い白い雲のように仕上げます。このように食を通して今後加西市の歴史をつくっていくものとなると、見た目だけではなく、味やストーリーのあるものが、爆発的に売れると感じました。

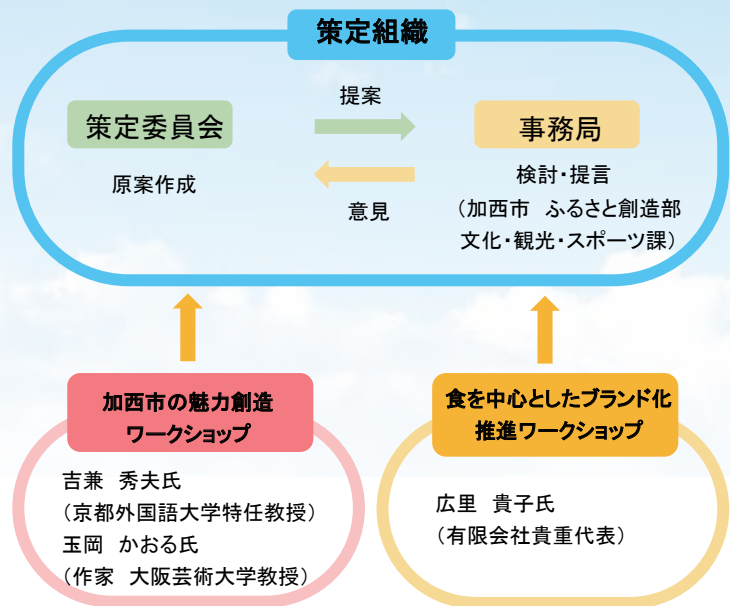


資料2 策定組織体制

①計画の策定組織体制

本計画は、「策定委員会」と「事務局」の2つの組織を中心に、市民意見を取り入れながら検討しました。

「策定委員会」は、学識経験者や商工・観光業関係者により構成され、計画案の実質的な策定・検討主体としての役割を担い、「事務局」は、本市文化・観光・スポーツ課職員により計画案の検討・提言などの役割を担いました。



②策定委員会名簿

(順不同・敬称略)

所属	役職	氏名	役職
京都外国語大学	特任教授	吉兼 秀夫	委員長
加西商工会議所	事務局長	森井 和喜	副委員長
神姫バス株式会社	バス事業部 計画課長	竹内 宏	
JA兵庫みらい	加西営農生活センター長	圓井 秀和	
兵庫県立フラワーセンター	参事	大豊 雅宏	
一般社団法人加西市観光協会	事務局長	船瀬 大輔	
いこいの村はりま	支配人	福垣 保	
北条鉄道株式会社	常務取締役	藤井 秀明	
観光まちづくり協会観光研究会	委員長	田中 俊宏	
兵庫県北播磨県民局県民交流室	室長補佐兼県民・商工観光課班長	西原 富美子	
富久錦株式会社	代表取締役社長	稲岡 敬之	
株式会社シャルム	代表取締役	深田 美香	

資料3 策定経過

日程		内容
令和3年度 (2021年度)	1月14日(金)	第1回 策定委員会 ・計画策定の進め方について(企画書基づきアウトラインの説明) ・スケジュールについて
	1月31日(月)	第1回 食を中心としたブランド化推進ワークショップ ・食の資源調査
	2月20日(日)	第1回 加西の魅力創造ワークショップ ・文化観光資源調査
	3月28日(月)	第2回 策定委員会 ・Webアンケート概要について ・ワークショップの報告
令和4年度 (2022年度)	5月27日(金)	第2回 加西の魅力創造ワークショップ ・文化観光資源検討会
	6月13日(月)	第2回 食を中心としたブランド化推進ワークショップ ・食の資源調査を踏まえた「加西市の食展開の提案」 (実食を踏まえた意見交換)
	8月31日(水)	第3回 加西の魅力創造ワークショップ ・文化観光資源検討会
		第3回 食を中心としたブランド化推進ワークショップ ・ワークショップ参加者からの「加西市の食展開の提案」
	10月7日(金)	第3回策定委員会 ・現状と課題について ・基本計画 骨子(案)について
	11月24日(木)	第4回策定委員会 ・基本計画(案)について
	12月26日(月)	第5回策定委員会 ・基本計画(案)について
	2月27日(月)	第6回策定委員会 ・基本計画(案)について

第3次加西市観光推進基本計画

発行日 令和5年(2023年)3月

発行 加西市

編集 ふるさと創造部 文化・観光・スポーツ課

〒675-2395

兵庫県加西市北条町横尾1000番地

T E L:0790-42-8756

E-mail:kanko@city.kasai.lg.jp